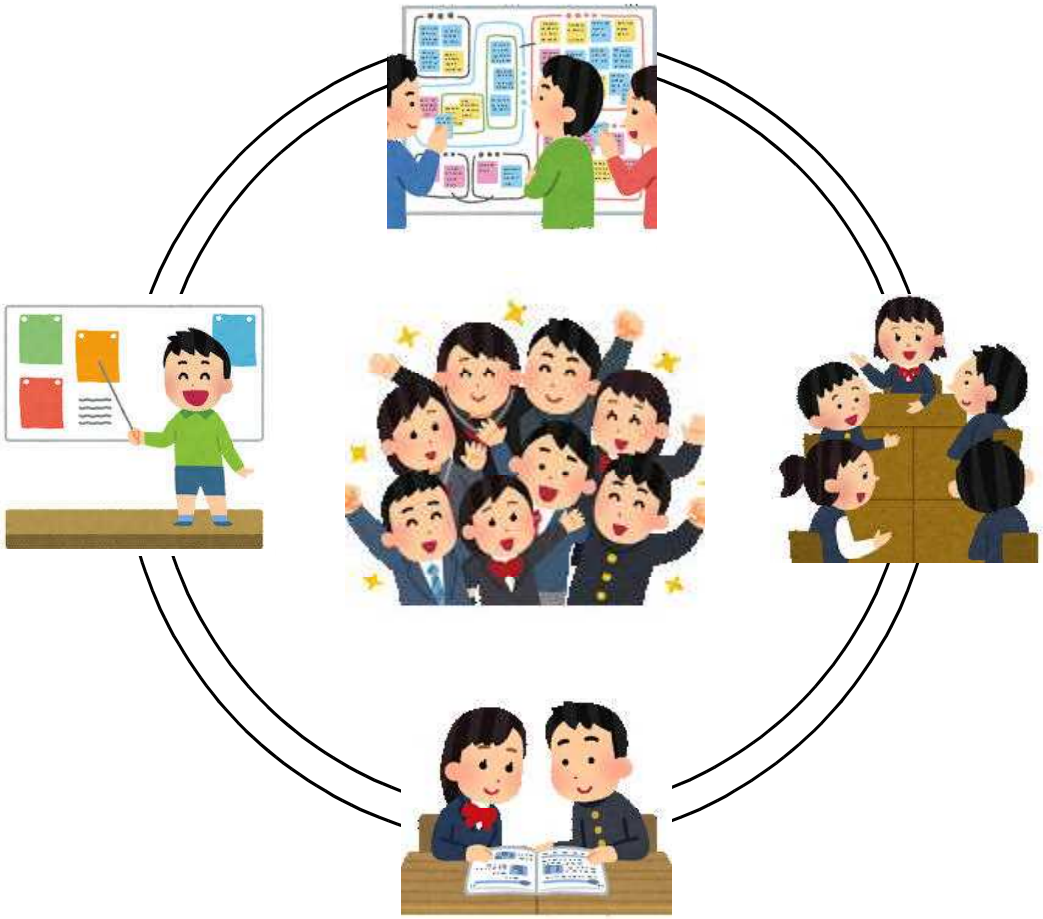
【参考資料】

確かな学力の向上のために

平成２９年度版



福島県教育庁県北教育事務所

【福島県教育委員会作成資料・県北教育事務所作成資料　関係図】

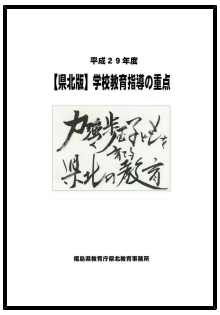
「【県北版】学校教育指導の重点」

福島県教育委員会発行の「学校教育指導の重点」を受けて、県北教育事務所として**域内の学校で取り組んでほしい指導の重点を解説**しています。

今年度は、**各教科等で重視したい授業づくりのポイント**を掲載しました。

各学校１冊ずつ配付しています。必要に応じて、校内で増刷してお使いください。

【県版】



【県北版】

「【県北版】リーフレット」

常に手元に置いて、御自身の授業実践、日頃の教育活動を振り返る指標としていただきたいと考え、項目をチェックできるように□で起こしました。折りたたんで、Ａ４クリアファイルに入れて持ち歩くなどして御自分の指導に磨きをかける参考としてください。

「【参考資料】確かな学力の向上のために」

授業づくりのポイントについて、**授業の在り方や支援の仕方等**を具体的に示しました。

先生方が日々の授業の準備をする時や校内研修の機会などに、授業づくりの**参考資料として活用**してほしいと考えています。

ふくしまの「授業スタンダード」

先生方一人一人が**自分の授業を常に振り返り**、その改善を図るとともに、学習指導要領の改訂に併せ**「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業**を**県内の全ての先生方が展開**できるよう作成されたものです。

目　　次

☆　学校教育指導の重点　全体構想　☆1

☆　【授業づくりの６つのポイント】　☆2

1　問題解決的な学習の基本過程　1

2　問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

○　授業づくりのポイント　2

授業づくりのポイント１
・　単元のねらいと子どもの実態等を踏まえ、系統性を図った単元構想の工夫　3

授業づくりのポイント２－１
・　ねらいからまとめまでの整合性を図り、子どもの思考を大切にしながら、目指す子どもの姿と手立てを明確にした授業の設計　5

授業づくりのポイント２－２
・　子どもの思考の流れを想定した構造的な板書計画　7

授業づくりのポイント３
・　必然性があり意欲が高まる学習課題の設定と解決への見通しをもたせる工夫　9

授業づくりのポイント４
・　思考を促し、見取り、生かす教師の働きかけの充実　１１

授業づくりのポイント５
・　思考の共有と吟味を促す学び合いをコーディネートする力の向上　１３

授業づくりのポイント６
・　学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実　１５

3　学習基盤づくり

○　学級・学習集団づくり　１７

○　一人一人の子どものよさや可能性を最大限に引き出すために　１９
～全ての学級に生かせる特別支援教育の視点～

○　連続性を意識した幼小中の接続へ　～幼稚園教育の視点から～　２０

○　中・高の学びをつなぐための課題と連携の在り方　～高等学校教育の視点から～　２１

4　明確な目標設定による組織的な学力向上策の推進　２３

＜参考文献・引用文献＞　２５

平成２９年度
学校教育指導の重点 全体構想

福島県教育庁県北教育事務所

力強く歩む子どもを育てる県北の教育

夢実現に向けてがんばる子どもたちに

生き抜く力の育成

ふくしまから はじめよう。

第６次福島県総合教育計画

基本理念　“ふくしまの和”で奏でる、こころ豊かなたくましい人づくり

基本目標
- ○　知・徳・体のバランスのとれた社会に貢献する自立した人間の育成
- ○　学校、家庭、地域が一体となった教育の実現
- ○　豊かな教育環境の形成

小・中学校の教育

確かな学力

「意欲的に課題に取り組み、解決する子ども」

★　問題解決的な学習を中軸とした授業の充実

【授業づくりの６つのポイント】
- □　単元のねらいと子どもの実態等を踏まえ系統性を図った単元構想の工夫
- □　ねらいからまとめまでの整合性を図り、子どもの思考を大切にしながら、目指す子どもの姿と手立てを明確にした授業の設計
- □　必然性があり意欲が高まる学習課題の設定と解決への見通しをもたせる工夫
- □　思考を促し、見取り、生かす教師の働きかけの充実
- □　思考の共有と吟味を促す学び合いをコーディネートする力の向上
- □　学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

【P３】

★　明確な目標設定による組織的な学力向上策の推進
- □　定着確認シート等を活用したショートスパンのＰＤＣＡサイクルの充実
- □　全国学力・学習状況調査等を活用したロングスパンの取組の工夫
- □　学校課題克服のために一人一人の教職員の役割を明確にした取組の充実

豊かなこころ〔P4〕

「心が通う人間関係を築く子ども」

★　道徳教育の充実
- □　指導の重点を明確にした全体計画の作成
- □　多様な指導方法と子どもの心に響く授業展開の工夫
- □　道徳の時間の授業公開と学校間・異校種間の連携強化

★　生徒指導の充実
- □　子どもの的確な見取りと組織による予防的な取組の推進
- □　不登校やいじめ未然防止・早期対応のための具体的方策についての共通実践
- □　教育相談体制の充実とＳＣ、ＳＳＷや関係機関等との連携

★　体験活動の充実
- □　地域の大人や異年齢集団との交流の充実
- □　自然体験活動や奉仕体験活動等、子どもの発達段階に応じた体験活動の充実
- □　職場体験等を通して、自己の生き方を考える機会の設定と充実

健やかな体〔P4〕

「進んで体力の向上と健康づくりに励む子ども」

★　進んで運動する態度の育成
- □　１２年間を見通したバランスの取れた指導計画の作成
- □　子どもが主体的に学習する授業づくりと実質的な運動時間の確保
- □　体力向上推進計画書に基づく体力向上策の共通理解・共通実践
- □　授業以外の体育的活動（業間活動・部活動等）に対する組織的な取組

★　健康で安全な生活を実践する態度の育成
- □　各教科等の特質に応じた保健学習・保健指導の充実
- □　給食指導の充実及び家庭や地域と連携した計画的な食育の推進
- □　身の回りの危険を予測し、回避する能力を育む安全指導の推進
- □　主体的に判断し、行動する態度を育む防災教育・放射線教育の充実

学級・学習集団づくり

~安心感・存在感・向上心~

- □　相手を尊重しながら自分の意見を主張できる態度の育成
- □　一人一人のリーダー性が育まれる機会の確保
- □　学級経営方針の明確化と教師が互いに支え合う体制づくり
- □　プロセスを認め、奨励、称賛する教師の姿勢
- □　子ども同士が互いのよさや成長を認め合う場の設定
- □　全員が気持ちよく学ぶためのルールの明確化

特別支援教育

~「地域で共に学び、共に生きる教育」の推進~

★　全教職員の連携による校（園）内支援体制の充実
- □　チームによる支援体制の整備と活性化

★　一人一人のニーズに応じた指導の充実
- □　合理的配慮の提供と「個別の教育支援計画」の作成・活用
- □　「個別の指導計画」に基づく授業の評価・改善
- □　特別支援教育の視点を生かした環境設定や指導の工夫

★　集団とのかかわりを重視したよりよい友達関係の充実
- □　一人一人のよさや特性、違いを認め合う集団づくりの推進
- □　ねらいを明確にした交流及び共同学習の推進

★　学校、家庭、地域及び関係機関との連携
- □　学校間や関係機関との連携による一貫した支援の充実
- □　特別支援学校のセンター的機能等の積極的な活用による授業や支援の充実

幼稚園教育

～５領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）を踏まえた保育の充実～

★　長期的・短期的な見通しをもった指導計画の作成・改善
- □　長期的計画と短期的計画との往還
- □　生活・発達・学びの連続性を踏まえた指導計画

★　主体的な活動が確保される保育の充実
- □　幼児期運動指針を踏まえた遊びの工夫
- □　教師の人的環境としての援助
- □　特別な支援が必要な子どもの実態に応じた指導の工夫

★　育ちつつある面やよさに目を向けた評価の工夫・活用
- □　次の手立てに生かす評価の工夫
- □　情報交換・意見交換による子どもの見取

連携　　連携

家　庭　　地　域　社　会

関　係　機　関

※　□の項目は、自分の指導を振り返るためのチェック項目として活用してください。

★　問題解決的な学習を中軸とした授業の充実　【 授業づくりの6つのポイント】

※　P.（　）は「【参考資料】確かな学力の向上のために 平成29年度版」との関連です。

ポイント１　単元のねらいと子どもの実態等を踏まえ、系統性を図った単元構想の工夫

P.3
P.4

□　学習指導要領を基に単元のねらいをとらえ、系統性や関連性等のある単元を構想しているか。

◎　単元のねらい（単元の学習内容や育てたい資質・能力）をとらえ、単位時間ごとの学習内容を明確にすることにより、系統性や関連性等のある単元を構想する。

□　普段の授業や各種調査から単元展開や授業に生かせる実態把握を行っているか。

◎　各種調査やアンケート等の分析、一人一人の学習に対する取組や予想されるつまずき、小学校、中学校、高等学校の系統性をとらえて、単元構成や授業に活用できる実態把握を行う。

□　目指す子どもの姿を具体的にとらえ、次の指導に生かせる評価計画を立てているか。

◎　単元や単位時間のねらいを明確にすることにより、目指す子どもの姿を具体的にとらえ、いつ・何を・どのように評価するのかをあらかじめ設定する。

ポイント２　ねらいからまとめまでの整合性を図り、子どもの思考を大切にしながら、目指す子どもの姿と手立てを明確にした授業の設計

P.5
|
P.8

□　単元の構想を踏まえ、ねらいからまとめまでの整合性を図っているか。

◎　単元構想と本時の目標、本時の課題、学習活動・内容、学習評価、まとめまでのつながりにぶれが生じないように、これらを行きつ戻りつしながら授業を具体的に設計する。

□　子どもが自ら解決に向けて取り組むための具体的な手立てを講じているか。

◎　各学習活動で目指す子どもの姿を明らかにして、その具現のためにどのような手立てが必要なのかを明確にする。

□　子どもの思考の流れを想定した構造的な板書計画になっているか。

◎　子どもの考えや関連、変化を予想したり、板書内容の配置や矢印、線囲み等による表し方を想定したりして計画する。

ポイント３　必然性があり意欲が高まる学習課題の設定と解決への見通しをもたせる工夫

P.9
P.10

□　子どもにとって考える必然性があり、解決への意欲が高まる学習課題を設定しているか。

◎　資料の提示や活動の設定等の工夫により、子どもの「問い」を引き出す。
◎　子どもの「問い」を学習課題につなげる発問を工夫する。

□　子どもが自ら解決の見通しをもてるように、めあてを把握させ、解決の方法や調べる視点等をもたせているか。

◎　すること・考えることを具体的に理解できるように、発問や指示を工夫する。
◎　既習事項や生活経験を基に答えを予想し、解決の方法や視点をもつように働きかける。
◎　すべての子どもがめあてを把握し、解決の見通しをもてているかを適切に見取る。

ポイント４　思考を促し、見取り、生かす教師の働きかけの充実

P.11
P.12

□　考える視点や方法、手がかりを一人一人にもたせるとともに、思考を促す発問を行っているか。

◎　考えをもたせるきっかけを与え、どの子どもにも課題の意味や発問の意図が十分に伝わるようにする。
◎　子どもの考えを揺さぶったり、矛盾や対立、葛藤を生みだしたりする発問を使って、子どもたちの思考を促す。

□　適切に子どもの学習状況等を見取り、本時における次の授業展開に生かしているか。

◎　見取る場面と観点を明確にした上で、机間指導等を通して学習状況を把握し、発表順序や発問等を工夫して授業展開に生かす。

□　一人一人の学習状況を把握し、個に応じた適切な支援の手立てを講じているか。

◎　子どもたちの活動や発言、ノートへの記述等の様々な機会をとらえて、一人一人の学習状況を的確につかみ、個に応じた支援、よさを生かす支援等を行う。

ポイント５　思考の共有と吟味を促す学び合いをコーディネートする力の向上

P.13
P.14

□　思考の共有と吟味を通して、子どもが新たな考えをつくり出せるような学び合いをさせているか。

◎　学び合いを通して目指す子どもの姿を具体的に想定する。
◎　学び合いを可視化・活性化するために、板書やホワイトボード、付箋、思考ツール等を活用する。
◎　一人一人の子どもの考えを的確に見取り、共有や吟味を図るための手立てを具体的にする。

□　学び合いの目的を踏まえたコーディネートを工夫しているか。

◎　子ども同士が学び合いの目的を共有し、一人一人が自分の考えをもって取り組めるよう働きかける。
◎　子どもの考えをつなぎ、深め、広げる「言葉かけ」や、考えの取り上げ方等を工夫する。

ポイント６　学習内容の定着を図る「振り返る活動」

P.15
P.16

□　課題との整合性を図り、本時に身に付けさせたいことをまとめているか。

◎　めあてとまとめの文脈がつながるように意識して、子どもたちの言葉を使ってまとめを行う。

□　学習内容の再生の場やねらいに合った適用問題を設定して、学習内容の定着を図っているか。

◎　学んだ知識や技能を活用して、書いたり話したり問題を解いたりする活動を位置付け、学習内容が子ども一人一人のものになっているかを確認する。

□　自己の変容や成長を自覚させることにより、充実感や満足感を味わわせ、次の学習への意欲を高めているか。

◎　学習感想や学習日記を書かせる際に、自己の変容をとらえる視点を明確にもたせ、よさや成長を自覚させているか。
◎　自己評価や相互評価を学習過程に効果的に位置付け、自分のよさや進歩を実感させているか。

1 問題解決的な学習の基本過程

思考を活性化し真剣に課題に立ち向かう学びを問題解決的な学習で！

中教審教育課程部会「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」において、「どのように学ぶか」が取り上げられました。そして「主体的・対話的で深い学び」実現へ向け、資質・能力の三つの柱に示す力が総合的に活用・発揮される場面を設定することが重要であると述べられています。

「課題を解決したい」「もっとできるようになりたい」・・・と意欲をもちながら学習に取り組む子どもは能動的です。自分のもてる力を駆使して、友達と知恵を出し合い、課題を解決する過程で、さらに力を身に付け、時にはそれまで以上の力を発揮します。このような学びの姿を問題解決的な学習を通して子どもたちに実現していきましょう。

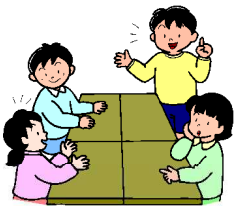
◇ 問題解決的な学習のよさ

- ◆ 学ぶことの楽しさや成就感を体得し、主体的に学習する態度が養われます。
- ◆ 問題を解決する方法等を学び、他の場面にも活用することができるようになります。
- ◆ 自分で考え調べ獲得した知識や技能は確実に身に付きます。
- ◆ みんなで協力したり、グループで活動したりすることにより人間関係が深まります。

◇ 問題解決的な学習のプロセス

問題解決の過程を取り入れ、次の５つの段階を基に授業づくりを進めてみましょう。

1 課題把握をする
2 見通しをもつ
3 自力解決を進める
4 思考の共有と吟味をする
5 振り返る活動を行う



段階		問題解決的な学習の仕方	子どもの見方・考え方の例	関連
導入	課題把握	○ 新たなことに出会いそれまでの経験や知識との間に疑問や矛盾を感じたことを話し合い、本時の課題をとらえる。	「ここから先は、どうなるのかな」 「～と～が違うのはどうしてだろう」 「～になるのはきっと理由があるはずだ」 「～というきまりがありそうだぞ」 「できる、できる、あれ？今までと違うぞ」 「～しないで問題を解くなんて、できるのかなあ」	P.9 P.10
導入	見通し	○ 既習事項や生活経験を基に見通す。 ・ 解決の方法を見通す。 ・ 答えの見当をつける。 ・ 調べる視点をもつ。 ・ 学習活動の筋道をもつ。	「～の方法でやれば、できるかもしれない」 「答えは～となるはずだ、確かめてみよう」 「～のように調べれば、何か決まりがみつかるかも」 「きっと～じゃないかなあ」 「このあたりから調べると分かるんじゃないかなあ」 「前に～と考えてできたから、同じように～してみよう」 「わたしだったら～する」	P.9
展開	自力解決	○ 見通しをもとに課題解決に取り組む。 ・ ノートや資料を活用し、必要な情報を集める。 ・ 自分の考えをもつ。 ・ 試しにやってみる。 ・ うまくいかないところを修正する。 ・ 分かったところと分からないところを整理する。	「使えそうな資料はないかな」 「教科書をよく読んで、大事なところに線を引いてみよう」 「言葉の意味を辞書で調べてみよう」 「前にやったことをノートで見てみよう」 「まず、こうやってみよう」 「図や表に表してみよう」 「説明できるように、言葉に表してみよう」 「ここまではできたけど、ここから先がわからない」 「できた！他のやり方でもできるかな？やってみよう」	P.11 P.12
展開	思考の共有と吟味	○ 課題解決に向けて話し合い、思考を共有する。 ・ 友達の考えをよく聞く。 ・ 自分と違う考えを理解する。 ・ 解決方法の内容を理解する。 ○ 思考を吟味する中で課題解決する。 ・ 正誤を確かめ、意味や理由、関連等を考える。 ・ 規則性を見付ける。 ・ 自分の考えを見直して再構築する。 ・ より分かりやすい表現にする。	「○○さんの考えとぼくの考えは同じだ」 「△△さんの意見は、～が同じで、～が違う。なぜだ？」 「□□さんに続けて言うと～ということになります」 「こういう考えもあるんだな」 「それはどういうことですか？」 「そういう意味か」 「こういう理由だったのか」 「～と～は、ここでつながっているのか」 「～をずっと見ていくと～というきまりがある」 「なるほど、～は～ということか」 「～は、～と表すともっと分かりやすいと思う」	P.13 P.14
展開 終末	振り返る活動	○ 振り返る活動により、学習内容を身に付ける。 ・ 課題について分かったことを自分の言葉でまとめる。 ・ 分かったことを広げて考える。 ・ 分かったことを生かして適用問題を解く。分からないことは質問する。 ○ 次時への意欲付けを行う。 ・ 解決されていないことを明らかにし、次時の学習の見通しをもつ。	「あの言葉とこの言葉をつなげて、まとめてみよう」 「話したことをかいてみよう」 「今日分かったことは、～にもつながっているね」 「さっきの考え方を生かして問題をやってみよう」 「ねぇ、どうしてこうなるの？」 「あれ、これはできないぞ。次の時間に考えてみよう」 「ここまでは分かったけど、ここからどうなるのかな」 ※ 授業によっては適用をまとめの前にすることもあります。	P.15 P.16

2　問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

先生方が日々の授業を振り返る際や校内研修の資料として活用できるように、**「授業づくりのポイント」**を示しました。詳しい内容については、本冊子の該当ページをご覧ください。
また、自己の重点の欄は、日々の授業や校内研修等で重点を定めて取り組む際にご活用ください。

＜授業づくりのポイント＞

	項　目	ポ　イ　ン　ト	該　当 ページ	自己の 重　点
ポイント1	単元のねらい	学習指導要領を基に単元のねらいをとらえ、系統性や関連性等のある単元を構想する。	Ｐ．３ Ｐ．４	
	実　態　把　握	普段の授業や各種調査から単元展開や授業に生かせる実態把握を行う。		
	評　価　計　画	目指す子どもの姿を具体的にとらえ、次の指導に生かせる評価計画を立てる。		
ポイント2	整　　合　　性	単元構想を踏まえ、ねらいからまとめまでの整合性を図る。	Ｐ．５	
	手　　立　　て	子どもが自ら解決に向けて取り組むための具体的な手立てを講じる。	Ｐ．６	
	板　書　計　画	子どもの思考の流れを想定した構造的な板書にする。	Ｐ．７ Ｐ．８	
ポイント3	課　題　設　定	子どもにとって考える必然性があり、解決への意欲が高まる学習課題を設定する。	Ｐ．９	
	見　　通　　し	子どもが自ら解決の見通しをもてるように、めあてを把握させ解決の方法や調べる視点等をもたせる。	Ｐ．10	
ポイント4	発　　問	考える視点や方法、手がかりを一人一人にもたせるとともに、思考を促す発問を行う。	Ｐ．11 Ｐ．12	
	見　　取　　り	適切に子どもの学習状況等を見取り、本時における次の授業展開に生かす。		
	個に応じた支援	一人一人の学習状況を把握し、個に応じた適切な支援の手立てを講じる。		
ポイント5	学　び　合　い	思考の共有と吟味を通して、子どもが新たな考えをつくり出せるような学び合いをさせる。	Ｐ．13	
	コーディネート	学び合いの目的を踏まえたコーディネートを工夫する。	Ｐ．14	
ポイント6	課題との整合性	課題との整合性を図り、本時に身に付けさせたいことをまとめる。	Ｐ．15 Ｐ．16	
	学習内容の定着	学習内容の再生の場やねらいに合った適用問題を設定し、学習内容の定着を図る。		
	意　欲　付　け	自己の変容や成長を自覚させることにより、充実感や満足感を味わわせ、次の学習への意欲を高める。		

＜授業づくりのポイント１＞

単元のねらいと子どもの実態等を踏まえ、系統性を図った単元構想の工夫

単元構想の３つの視点

単元のねらい

単元のねらいを明確にするには？

○　**学習指導要領**を基に単元のねらい（単元の学習内容や育てたい資質・能力）を明確にとらえましょう。

特に**学年間の系統性**や**単元間の関連性**等をしっかり把握することが大切です。

○　単元のねらいに迫るために、子どもが意欲的に取り組める学習内容のつながりや関連性・系統性を踏まえて単元の計画を立てましょう。

○　単元や１単位時間のねらいに応じた適切な**言語活動**を設定しましょう。

子どもや地域、学校の実態把握

実態を把握するには？

○　**各種調査**で学年、学級の状況や子どもたちの特性等をとらえましょう。

○　単元の学習内容に関する**レディネステスト**や**アンケート**等で単元に関わる学習状況や既習事項をつかんで指導に生かしましょう。

○　普段の授業や生活から一人一人の興味・関心や学習への取組、つまずき等を**予測**しておきましょう。

○　地域の自然環境や社会的条件のよさを取り入れるようにしましょう。

目指す子どもの姿を明確にした評価計画

目指す子どもの姿をとらえるには？

○　単元の学習内容を押さえた上で、学習後に子どもが何を身に付け、何ができるようになるのかを想定し、具体的に**目指す子どもの姿**をとらえましょう。

○　単元のねらいと関連付けながら、言語活動によって一人一人の子どもに**身に付けさせたい力**を明確にしましょう。

○　どんな場面で、どのような方法で評価するのか、あらかじめ設定し、次の指導に生かす評価を計画しましょう。

ゴールからの構想を

単元構想に当たっては、まず本単元で育成したい資質や能力など、目指す子どもの姿を描いてみましょう。そこからさかのぼることにより、子どもの実態に応じた、必要な指導の手立てが見えてきます。

単元計画を立てるときのポイント！！

教材研究により教材を吟味し、学習内容・方法等を工夫し、単元を構想します。

【具体的な教材研究】

- 教材の選択　　・教材の解釈、分析
- 教材と身に付けさせたい力の関連付け
- 単元での教材活用（何を、いつ、どこで）
- 他教材との比較　等々

【ねらいに迫るための言語活動】

- 子どもの実態、身に付けさせたい力を明確にする。
- 身に付けさせたい力にふさわしい言語活動を選択する。
- 言語活動を課題解決・課題追究の過程に位置付ける。
- 思考や判断を促す発問や指示を具体化する。

学習の連続性を

１時間１時間の授業が細切れになっていることはないでしょうか。子どもの学習の連続性をもたせる計画を立てることで、学習内容の定着とともに、学習意欲の持続や向上を図ることができます。

教科書研究を

教科書がある教科の場合、教科書の構成や掲載されている資料、設定されている数値などを本文と関係付けて読み込みましょう。そうすると、学習指導要領との整合性や教材の価値をつかむことができます。

また、異校種の教科書にも目を通し、系統性を確認しましょう。

学習の連続性をもたせる単元構想

＜中学校社会科「ヨーロッパ人との出会いと全国統一」を例に＞

◇　系統性・関連性を把握しましょう

子どもの学びは、学年、単元、単位時間が分断されているわけではなくつながっています。教科の特質にも応じますが、校種、学年、単元等の**系統性**や**関連性**を確認しましょう。

小学校で育成した資質・能力、既習事項

＜資質・能力＞
- 教科書、資料集、その他の図書から情報を得ること
- 見学、聞き取りにより深く調べること
- ペア、小集団で情報交換や意見交換をすること
- 調べたり考えたりしたことを新聞やポスターにまとめること
- まとめたことをもとに自分（たち）の考えを発信すること

＜既習事項＞
- ３人の武将と天下統一
  安土城と織田信長　大阪城と豊臣秀吉　江戸城と徳川家康

小学校の段階で養っている資質・能力や本単元にかかわる既習事項を確認しておきましょう。

教科の特質により、本単元とつながりのある単元との系統性を確認することも必要な場合があります。

本単元における目指す子どもの姿

戦国の動乱とヨーロッパ人の来航を関連付け、ヨーロッパ人が日本に及ぼした影響について、多面的・多角的に考察する姿

◇　毎時のつながりをもたせましょう

子どもの疑問を学習課題につなげる導入を工夫し、毎時の学習がつながっていくように計画します。単元の指導計画に当たっては、学習の連続性をもたせるために、**子どもの疑問を予想**すると、問題、資料、発問、時間、学習形態などが設定しやすくなります。

単元の指導計画（総時数７時間）

	主な学習内容・学習課題
①	○　単元の導入(信長の統一事業) 「信長が安土を楽市・楽座にしたのはなぜか。」 ○　単元の学習計画 ・　鉄砲やキリスト教はどこから？ ・　ヨーロッパで何があったのか？ ・　信長の後継者秀吉の政治とは？ ・　信長、秀吉の頃の文化は？
②	○　ヨーロッパ人との出会い 「どこから鉄砲やキリスト教が日本に伝わったのか。どんな影響があったのか。」
③	○　ヨーロッパと外の世界 「ヨーロッパ人はどんな目的で世界に進出し、どのような影響を与えたのか。」
④	○　キリスト教世界とルネサンス 「なぜヨーロッパ人が大航海できるようになったのか。そのころのヨーロッパはどんな社会だったのか。」
⑤ ⑥	○　秀吉の統一事業 「秀吉はどのようにして天下を統一したのか。」
⑦	○　桃山文化 「桃山文化はどんな文化なのかな。」

全国統一と鉄砲、キリスト教、南蛮貿易との関係が分かってきましたが、ヨーロッパ人は日本に来る必要があったのでしょうか？

予想される子どもの疑問

鉄砲やキリスト教伝来、南蛮貿易などによる、全国統一への動きや人々の生活の変化は分かったけど、どうしてヨーロッパ人は日本へ来る必要があったのかな？

本時のまとめでは、学習の確認とともに次時の学習につながる疑問をもたせます。そのために、子どもの疑問を予想しておきましょう。

次単元や関連する単元の学習

高等学校の学習

この計画は、子どもの実態、興味関心を踏まえ連続性をもたせるために、教科書では③④②①⑤⑥⑦の順になっているものを組み替えています。

＜授業づくりのポイント２－１＞

ねらいからまとめまでの整合性を図り、子どもの思考を大切にしながら、目指す子どもの姿と手立てを明確にした授業の設計

◇　本時の授業設計は単元構想に基づいていますか？

単元構想　３つの視点（ねらい、実態把握、評価計画）から**育てたい資質・能力**を明らかにし、単元の指導計画を立てる。

本時の目標　単元構想と関連させて**目指す子どもの姿**と主な手立てを示す。
〈例〉「～（学習内容）～について、～（手立て）～により、～（目指す子どもの姿）～することができる。」

本時の課題　**本時の目標と直結**し、子どもにとって**学ぶ必然性のある課題**を設定する。

学習活動・内容　**学習課題を解決**するための 学習活動・内容及びその手立てを位置付ける。

学習評価　**本時の目標について評価**する。具体的な子どもの姿を明確にした評価規準を作成する。

まとめ　**本時の課題に対するまとめ**を明確にする。

行きつ戻りつ整合性をチェック

◇　子どもの立場に立って授業をつくっていますか？

目指す子どもの姿は的確な実態把握から！

教材観

授業に生かす実態把握

- ○　学力の実態
- ○　既習事項の定着の程度
- ○　子どもの興味・関心、生活経験
- ○　本単元で生かしたい子どものよさ
- ○　本単元で克服したい課題
- ○　問題解決を図るために必要な知識や技能、表現力や態度

具体的な指導・支援の構想

- ○　身に付けさせたい（伸ばしたい）**資質・能力・態度**をとらえる。
- ○　それを**引き出し**、**伸ばす**ためにどんな方法（指導・支援指示等）を用いるか**具体化**する。

＜手立てが必要な場面＞

＜導入＞

A　学習課題の設定

B　課題解決の見通し

＜展開＞

C　課題解決能力を伸ばす個に応じた働きかけ
（自力解決）

D　思考の「共有」と「吟味」
（学び合い）

＜終末＞

E　学習を振り返る活動

＜手立ての例＞

＜導入＞

○　意欲を高める課題設定
- A　具体物（実物）の活用
- A　実演の提示
- A　ICTの活用

○　既習内容を活用した課題設定
- A　体験活動の活用（見学や取材活動等）
- A　統計、写真等の資料の活用
- A　既習の振り返りから未習へ

○　課題解決の見通し
- B　既習内容や既有経験の活用
- B　答えの見当

【手立ての基本型】

～（具体的手立て）～により

～（目指す姿）～ようにする

（P.６参照）

＜展開＞
- C　座席表等を活用した見取り
- C　つまずきに応じた支援
- CD　考えの交流を図る学習形態（ペア、小グループ等）
- D　子どもの思考を促す発問
- D　子どもの考えや発言をつなぐ教師のコーディネート
- D　子どもの発言を生かした構造的な板書の活用

＜終末＞
- E　キーワードや板書を活用した本時のまとめ
- E　目標の達成状況をみる適用問題
- E　自己評価表の活用や視点を明確にした学習感想の記入

整合性と手立て…授業案のここがポイント！

◇　授業案において、単元のねらいからまとめまでの整合性が図られていて、具体的で明確な手立てが示されていること、それがポイントです。

＜整合性を見るポイント＞（授業案例）

1　単元名　「面積のはかり方と表し方」小４算数科
2　単元について
（1）　教材観
（2）　児童観
（3）　指導観
3　単元の目標
○　・・・・・・・・・・・・・・　【関心・意欲・態度】
○　面積は、量や乗法の学習を基に単位の何個分で数値化して表すことや、**辺の長さを用いて計算で求められることを考え**、とらえることができる。
【数学的な考え方】
○　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　【知識・理解】
4　指導計画と評価規準（総時数11時間）

次	時	主な学習活動	評価規準
	5	複合図形を分けたり付け足したりして長方形の面積の公式を活用して複合図形の面積を求める。	**長方形の面積の公式を活用できるように、複合図形の面積の求め方を考えている。（考え方）**

5　本時の目標
複合図形の面積を求めることについて、長方形の面積の公式を活用し、図形を分割したり、付け足したりすることにより面積の求め方を考えることができる。
6　指導過程

学習活動・内容	時	手立ての具体例　○よい●悪い
1　既習を振り返り、本時の課題をつかむ。 （1）前時の学習内容を振り返る。 （2）課題をとらえる。 **どのようにすれば面積を求めることができるだろうか。**		A○前時の学習を振り返り、その後未習の問題を提示することにより疑問をもたせ、本時の課題をとらえることができるようにする。
2　解決の見通しをもつ。		B○使えそうな既習事項を振り返り正方形、長方形をもとに考えさせることにより、解決の見通しをもつことができるようにする。
3　自分の考えた方法で面積を求める。 ・３つの長方形に分ける方法 ・横に２つに分ける方法 ・縦に２つに分ける方法 ・大きい長方形から小さい長方形を引く方法		C○自力解決できない児童を集め、小黒板を使って分割する方法のヒントを与えることにより、自力解決ができるようにする。 C○面積の加減計算で解決できた児童に対しては、もう一つ同じ複合図形を与えることにより、倍積変形による考え方で解決できるようにする。
4　全体で共有・吟味する。		D●子どもたちの考えた方法を画用紙に書かせて黒板にはり、それぞれの考え方を共有・吟味する。
5　本時を振り返る活動をする。 （1）学習内容をまとめる。 **分けたり付け足したりして長方形にすれば、公式を使って面積を求めることができる。**		E○板書のキーワードをもとに学習内容を振り返らせ、自分の言葉でまとめをさせることにより、学んだ実感をもつことができるようにする。
（2）適用・習熟問題に取り組む。 （※　適用をまとめの前にすることもある。）		E●学習感想を書かせて本時を振り返る。

児童の実態として、「算数が好きな児童が○人」とか、「進んで発表できない児童が多い」など、教科に対する情意面や授業の全般的な実態等だけにとどまっていることはないでしょうか？
本単元で生かしたい子どものよさや既習の定着の程度等をつかんでいるからこそ、指導観で具体的な手立てを明らかにすることができます。

具体的な手立てによりどのような子どもの姿を導きたいのか構想します。

自力解決のために既習のどんな考え方を使うのかが分かります。

つまずいている子どもがどのように課題解決を図るのかが分かります。

力をさらに伸ばす発展的な考えにつながる手立てとなっています。

多様な考えがあることに気付かせるために、どのように比較検討して課題に迫るのか、具体的にしたい。

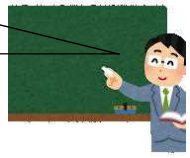
「自分の考えと比べてどう思ったか」等、どのような感想を書かせるのかの視点がほしい。

＜授業づくりのポイント２－２＞

子どもの思考の流れを想定した構造的な板書計画

黒板は、子どもたちが学び合ったことを表現する場です。子どもの思考の流れを想定した板書計画により学習内容を構造化し、分かりやすい授業を目指しましょう。

分かりやすい板書は分かりやすい授業につながります。



◇　板書計画の意義は？

○　学習内容を構造的に表すことにより、要点や関連等が明確になる。
○　子どもの思考の流れにそって板書内容を考えることにより、授業展開が明確になる。
○　子どもたちの考えを想定し、分類や整理等をしておくことで子どもの思考を生かして深めることができる。

板書計画を立てることにより、発問や活動が具体的に見えてきます。

◇　構造的な板書とは？

○　子どもの思考の流れにそった板書
・　学習課題→見通し→子どもの考え→話合いの内容→まとめ等、一連の流れが分かるようにする。
○　構造化する内容
・　子どもの気付きや考え、賛成・反対などの立場
・　学習内容の比較、分類、整理、関連、統合等
・　心情等の変化、変容
○　留意したい点
・　子どもがノートをとる時に、迷わずに写したりまとめたりできるような構造的な板書を心がける。

◇　構造的な板書にする効果的な方法は？

○　文字のサイズ、書く方向、矢印、線囲み、色チョークを活用する。
・　上下・左右の空間の利用の仕方を工夫する。
・　短い語句、図、表、写真等を効果的に活用する。
・　心情曲線、イメージマップ、マスキング等、子どもの思考を促す方法を工夫する。

賛成・反対を線囲みしたり、線や矢印でつないだりすると、立場を明確に示すことができます。
分類、関連、統合したことを表に書くと、情報を整理することができます。
心情や行動の様子を曲線や矢印で示したり、書き出す位置（上下、左右など）を変えたりすると、変化や変容をつかむことができます。

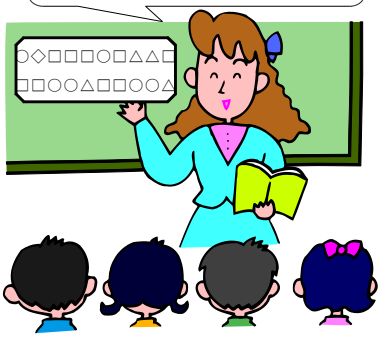
◇　ワークシートの落とし穴

授業で学習したことや板書を記録する時、ノートを使用するのが基本ですが、学習内容をまとめやすくしたり、時間を短縮したりするためにワークシートを使用する場合があると思います。ワークシートは、活用の仕方によっては効果的な場合がありますが、次のような「落とし穴」があるので注意しましょう。

○　授業が始まって、すぐワークシートを渡していませんか？
→　まずは、学習意欲を高める導入が最優先です。必然性のある課題設定をした上で、解決するための手段として配付しましょう。

○　最初から指示や発問が印刷されていませんか？
→　授業の内容や流れが先々まで分かってしまうために、子どもの主体的な学習をさまたげることがあります。
→　子どもが、どこに何を書くか、内容まで明確になってしまうと、多様な考えを表出しなくなったり、話合いが深まらなかったりする場合があります。

きょう学習したことを黒板で振り返るよ。



Check!
・黒板はきれいですか
・チョークの粉がたまっていませんか
・授業に必要のないものを貼っていませんか

子どもの思考の流れを想定した構造的な板書

◇板書構成のポイント

学習課題、予想、調べたり考えたりしたこと、結果、まとめまでの一連の学習を、子どもの思考の流れを想定して構造化します。

＜中学校社会「江戸幕府の成立と鎖国」を例に＞

一単位時間で１枚の板書を！
本時の授業を１枚の板書で完結する書き方をすると、一目で授業全体を振り返ることができます。

A 学習課題
江戸幕府は、どのように全国を支配したのか？

まとめ
江戸幕府は、莫大な領地、都市、鉱山を支配し、大きな力をもった。大名、朝廷、寺社を法律やしくみを整備して支配した。

B 予想
・大名の配置の工夫　・参勤交代による出費　・武家諸法度による支配

C
1600　関ヶ原の戦い
1603　家康が征夷大将軍に

江戸幕府
・幕領400万石
・重要な年の直接支配
・鉱山支配
・貨幣鋳造権

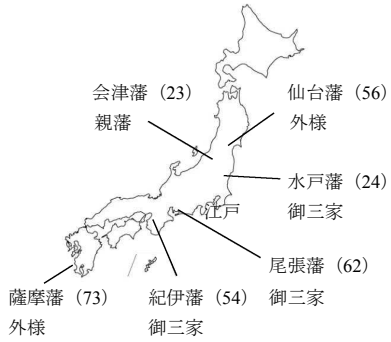
幕府は重要なところを直接支配して、大きな力をもっている。大名や朝廷には、様々なきまりやしくみをつくって力をもたせないようにしている！

大名支配
武家諸法度…改易、国替え
参勤交代…多くの出費

大名配置…幕藩体制

親藩　譜代大名…幕府の役職
↓ 見張り　重要な所
外様大名…江戸から遠い所

朝廷・寺社支配
京都所司代→朝廷監視
寺社奉行→寺社の取りしまり
禁中並公家諸法度→天皇、公家の行動制限



子どもの思考の流れを想定した板書計画

A　資料や既習事項などから、子ども自身に問いをもたせ、学習課題につなげます。
めあてとまとめの整合性を図りましょう。

学習課題を書かずに、学習内容だけを書いているということはないでしょうか。

B　学習課題に対する自分の考えを予想させ、問題解決的な学習に適した予想を書き出します。
結果の予想だけではなく、解決の見通しをもたせる場合もあります。

C　子どもが発表したことを統合させて線囲みしたり、関連付けるために矢印でつないだりしながら、課題に関係する内容を構造化します。
思考の高まりや変化を強調するために、子どもの考えを吹き出しにして表すことも効果的です。

内容を視覚的に捉えさせることは大切ですが、事前に準備したカードでいっぱいの板書にはなっていないでしょうか。子どものそのときの考えや発言を板書に生かしましょう。

予想される子どもの考えや発言

どうして江戸幕府は２６０年も続いたのかな？どんな風にして大名を支配したのかな？

大名配置を工夫したり、参勤交代をさせて出費が多くなるようにしたりしたと思います。

外様大名には江戸から遠いところを治めさせ、参勤交代での出費が多くなるようにしています。

◎　板書計画を考えると、指示や発問、つなぐ働きかけや板書のタイミング等まではっきりさせることができます。

＜授業づくりのポイント３＞

必然性があり意欲が高まる学習課題の設定と解決への見通しをもたせる工夫

◇　学習課題設定のポイント・・・

「与える」から「引き出す」へ

「今日のめあては○○です。わかりましたか？それでは自分で考えて」・・・

このような導入で、教師の「教えたいこと」を子どもの「学びたいこと」に変えることができるでしょうか？　思考力・判断力・表現力等の育成には子どもの主体的な姿勢が重要なポイントになります。そのためには、教師の一方的な課題提示ではなく、子どもの**「問い」を引き出し、学習課題につなげていく**ことが必要です。

学習課題に求められる要件

- ○　子どもの実態に即している。
- ○　課題解決への必然性がある。
- ○　適切な難易度で、解決の見通しをもつことができる。
- ○　身近な素材やことがらである。
- ○　学習への興味・関心を高めることができる。
- ○　多様な見方や考え方を引き出すことができる。

「問い」を引き出す課題設定の工夫

・「実物」を通して
・「実演」を通して
・「対話」を通して

子どもと教材との出会いを大切にして、「問い」や「思い・願い」を引き出しましょう。

＜資料や課題の提示例＞
- ○ 資料を少しずつ見せる。一部を隠して見せる。
- ○ 複数の資料を比較(対比)させる。
- ○ 事象(現象)の理由を考えさせる。
- ○ ブラックボックスによる提示や結果一覧から決まりを見いださせる。
- ○ 既習から未習へ移ることでギャップを感じさせる。
  できる→できる→あれ？
- ○ 分類したり類別したりする活動から特徴を見つける。
- ○ 条件を加えたり、制限したりして負荷をあたえる。

「問い」を課題へ

- ○「ということは、みんなが調べたいことは・・・？」
- ○「ということは、今日は何を考える必要がありますか？」
- ○「みんなの疑問を整理すると□□ということになるけどどうかな？」
- ○「Aさんの疑問いいですね。それをみんなの課題にしようか？」

本時の学習課題・めあて

○　教師による学習課題設定だったとしても・・・

子どもから「問い」を引き出し、学習課題につなげることが難しいことがあるかもしれません。また、技能教科において、「～しよう」という行動目標になることもあると思います。

発問を工夫することで、**学習課題を学習の主体者である子どもたちのものとして意識させる**ようにすることが大事です。

「前の時間に課題として残っていたことを思い出してみましょう。」

「学級として○○というめあてに取り組みたいのですが、どのように学習していけばいいでしょうか。」

「では、どんなことに気を付けて学習するかを考えてみましょう。」

◇　課題解決の見通しをもたせましょう

○　子どもにめあてを把握させる。【ゴールの確認】
- 「授業で行き着こうとするところ」をはっきりと意識させましょう。

○　めあてを達成するためにどうすればよいかの見通しをもたせる。【方法の確認】
□解決方法　□答えの見当　□調べる視点　□学習の道筋
- 何も与えず考えさせる→既習事項や経験を思い出させる→直接ヒントを与えるなど、子どもの状況によって対応を考えましょう。

○　すべての子どもが見通しをもてているか見取る場面を設定する。
- ペアでめあてを確認したり、ネームカードで解決方法を選択させたり工夫しましょう。

○　子どもの多様な発言に対応できる準備を行う。
- 子どもの反応を数多く予想することで柔軟に対応でき、子どもの主体性を引き出せます。

その学習課題、ちょっとした工夫で変わります！

◇　子どもから問いを引き出し、解決の必要感から設定した課題

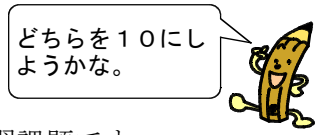
＜小学校１年　算数「たしざん」＞

問題　たまごは　あわせて　なんこですか

○○○○　　○○○○○
○○○

本時の目標が、「４＋８の計算の仕方を考えることを通して、被加数を分解して計算する方法について理解する。」である時、下の２つの学習課題のうち、児童の学習意欲を喚起し、しかも本時の目標に直結する学習活動が予想されるのはどちらでしょうか。

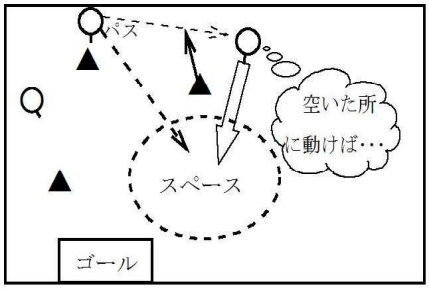
Ａ「４＋８の計算のしかたを考えよう」
Ｂ「どちらに１０のまとまりをつくろうかな」



Ａは、どのような四則演算でもよく見られる学習課題です。
しかし、本時では、Ｂを問うことによって既習と異なる方法があることに気付かせることができ、ねらいに直結する学習活動が期待できます。

算数においてBのような学習課題を作るには、教科書のキャラクターのつぶやきが参考になります。

＜小学校５年　体育「ゴール型ゲーム」＞



Ｔ　前の時間のパスはどうだった？
Ｃ　パスをすると相手にとられた。
Ｃ　あまりボールをもらえなくて、ゲームにならなかった
Ｔ　パスをもらう側はどんな工夫をすればいいかな？

そこで、**学習課題を「うまくパスがもらえるには、どこに動けばよいだろうか。」と設定**します。例えば、「パスのもらい方を工夫してゲームをしよう」と教師が一方的に提示するよりも、学習内容（空いた場所に素早く動くこと）について主体的に思考させ運動させることができます。

技能を中心とした教科であっても、工夫することで子どもの問いを引き出して必然性のある課題を設定することができます。

＜中学校１年　数学「正負の数」＞

問題　バスケットボール部員８人の身長の平均を、いろいろな方法で求めてみましょう。
Ａ：153 cm　Ｂ：148 cm　Ｃ：152 cm　Ｄ：155 cm
Ｅ：150 cm　Ｆ：159 cm　Ｇ：147 cm　Ｈ：152 cm

問題をそのまま課題にしていないでしょうか。問題と課題は区別して提示したいものです。

上のような問題を受け、最初に小学校で学んだ身長の合計を人数で割る方法で答えを出します。
その後、Ａのような課題を設定する場合と、さらに小学校で行った「仮の平均」を定めて計算する方法があることを振り返り、Ｂのような課題につなげる場合があります。

Ａ「もっと簡単に求める方法を考えよう」
Ｂ「どのように仮の平均を設定すると簡単に求められるだろうか」

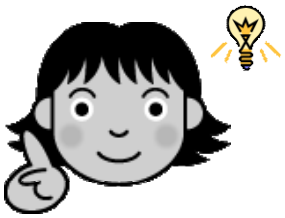
Ａは、漠然としていて、生徒自身がどのような学習をすればよいかがとらえにくい課題です。それに対してＢの課題は、仮の平均をどのように設定すればよいかを学習することが課題の中に示されています。また「仮の平均を最大値と最小値の間に設定することで正負の数が活用でき、簡単に求めることができる」というまとめとの整合性がとれる課題となっています。

「～について考えよう」の課題から脱却し、
「なぜ～」
「どのように～」など、
子どもの問いのある課題を設定しましょう。
何を考えるか学習内容を示唆する課題を設定することが大切です。

〈授業づくりのポイント４〉

思考を促し、見取り、生かす教師の働きかけの充実

◇　子どもが自分の考えをもつときとは？



(1)　課題の意味や発問の意図が分かったとき

(2)　考える視点や方法が分かっているとき

(3)　考えるための手がかりがあるとき

(4)　考える時間があるとき（間）

考えをもたせるきっかけ（思考のヒント）を与えていますか？

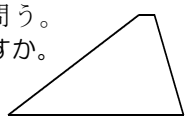
◇　思考を促す発問とは？

子どもの考えを揺さぶる
　これまでの既習内容や経験に反することを投げかける。
「～だったよね。でも、～なのはどうしてだろう。」

考えを照らし合わせる
　子ども相互の考えを予想したり、再生したりさせる。
「Aさんの言葉の続きを言えるかな。」
「Bさんの考えていること分かりますか。」

ポイントは目指す子どもの姿

葛藤を生む
　これまでの学習から、どちらか判断に迷うことを問う。
「これは、三角形ですか。四角形ですか。」



矛盾・対立を生む
　考えの共通点や相違点を整理したり、根拠や微妙な違いを問い返したりする。
「みんなは同じって言ったけど、～というところは本当に同じかな。」

分類や比較をさせる
　調べたことや友達の考え等の間にある相違点や共通点を見付け出させる。
「ＡさんとＢさんの考えの似ているところはどこかな。」

関連付けさせる
　分かった事柄の間に、どのような関係があるのかを考えさせる。
「分かったことをつなげると、どんなことが言えるのかな。」

多面的に見させる
　新たな視点でアプローチする方法を示し、子どもによる解決を促す。
「もし、～だったらどうなるだろうか。」

◇　何を、どうやって見取るか？

〈机間指導で見取る〉

発問の理解、反応、全体の傾向の把握

ねらい達成につながる思考の把握

座席表活用

個々の子どものつまずきの把握

子どもが書いた付箋紙を貼ることで発言しない子の考えを見取ることもできます。

こうした発言を**見取り、価値付けて、広める。**
「～という言葉を使ったから、わかりやすかったね。みんなも使ってみよう。」

〈子どもの発言から見取る〉

子どもの言葉から見える思考力

・「○○が～したのは、～だからなんだ」　（理由付け）
・「○○と□□を比べると、～が違う」　（比較、相違）
・「○○と△△には、～というきまりがある」（規則性）
・「～ということから～ということが言える」（類推）　など

〈ノート等から見取る〉

・　自分の考えを書いた部分から子どもの思考過程を確実に見取り、授業展開に生かす。
・　**よい点を称賛したり、励ましのコメントを入れたりしながら意欲を高める。**
・　授業後に自分の指導を振り返ったり、次時の指導に生かしたりする。
（ノート指導はP.15を参照）

◇　どの場面で何を見取り、どのように授業展開に生かすか？

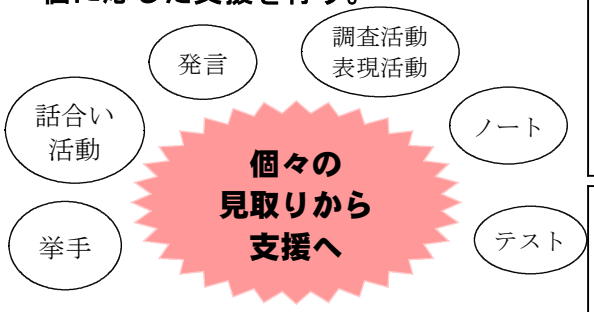
		＜目的をもった見取り＞	＜見取りをどう生かすか＞
導入	○本時の課題を把握する。	○課題をとらえているか。 ○見通しをもつことができているか。 ○意欲が高まっているか。	多くの子どもが戸惑っている場合は、補足説明や新たな視点を与えます。
展開	○自力解決をする。 ○考えを交流する。 ○思考の共有と吟味をする。	○解決のために取り組んでいるか。 ○次の展開に生かせる考えはないか。 ・ねらいにせまる考え方をしている。 ・途中までは考えられている。 ・ほとんどの子どもが間違った考え方をしている。 ・教師の想定や他の子どもと違った視点から考えている。 ○ペアやグループの場合は、ねらいに即した交流が行われているか。	どの考えを取り上げるかどの順番で取り上げるか、何に気付かせ、何を問い返すか、着地点はどこか等を判断し、考えをつなぐ言葉かけをしながら、思考の共有と吟味ができるよう教師がコーディネートします。 また、ねらいに即した交流が行われていない場合は学習形態を見直したり、指導や助言をしたりします。
終末	○学習を振り返る。	○学習の振り返りをしているか。 ・定着の度合いはどうか。 ・全体に紹介したい考えや学びの姿はどれか。 ・つまずきの傾向は何か。 ・次時への意欲付けは図られたか。	つまずいている子どもへの指導や助言をします。 ねらいが達成できた姿を紹介し、称賛します。

（思考の共有と吟味、教師のコーディネートについてはP.13･14参照）

【机間指導の留意点】

- ただ巡視するのではなく、「何を見取るのか」という目的をもって机間指導を行う。
- 指示した内容や活動が適切であるか判断し、授業の展開や指導形態の見直しを図るなど、教師自身の指導の在り方へとフィードバックさせ、よりよい指導を追究する。
- 子どもたちが自分から話すことができるような温かい雰囲気づくりを心がける。

○　様々な機会で一人一人を把握し、個に応じた支援を行う。



子どもの姿から教師自身の振り返りへ

個別指導も大切ですが、一斉指導における教師自身の話すスピードや間、発問内容、板書等が適切であるかどうかの振り返りも必要です。

○　教師の話が全員にしっかりと伝わっているか。
○　本時の課題をつかませることができたか。
○　課題解決の方法を見付け出させたか。
○　本時の評価を具体的に設定しているか。

見直しを充実させる指導・支援

問題をいろいろな方法で繰り返し解決させたり、答えを自ら確認させたりすることで子どもたちの定着度が大きく違ってきます。

○　問題の解き方や解答を再確認することの習慣化
○　ペアやグループでの見直し
○　教師の意図的な問題や課題の提示

個に応じた指導・支援

子ども一人一人の実態を的確にとらえ、理解度に合わせた問題を用意することによって意欲が高まります。

○　基本から発展までの数種類の問題を準備
○　発言しない子への言葉かけ
○　理解度に合わせた家庭学習の提案

興味・関心や得意分野などを生かした指導・支援

子どもの問題点だけでなく、よさを生かす視点で個別指導を行うことが大切です。

○　よさを見付け、全体に広げ、認める等の称賛
（例）「○○さんは、みんなが気付かなかったことを見付けて発表しました。すばらしいですね。」

＜授業づくりのポイント５＞

思考の共有と吟味を促す学び合いをコーディネートする力の向上

◇　学び合いを通して目指す子どもの姿

「よし、同じだ。これでいいんだ」　（確　信）
「そうそう、そうなんだよ」　（共　感）
「あれ、なんか違うな。なぜだ？」　（吟　味）
「ということは、こういうことか」　（再構築）
「もしかしたら、こうかもしれない」　（推　理）
「だったら、こうしたらどうかな」　（創　意）

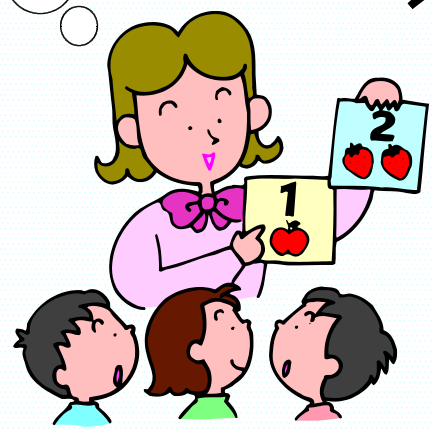
仲間と考えを共有したり、吟味したりすることを通して自分自身の中で対話が生まれ、新たな自分の考えをつくり出すことが学び合いの目的です。

◇　教師のコーディネート

大切にしたい基本

発　問：目指す子どもの姿を想定して中心発問を吟味する。
学習活動：子どもの意識の流れに沿った学習活動を工夫する。
机間指導：子どもの考えを的確に見取って学び合いの見通しをもつ。

『〇〇さんの考えから入って、
□□さんの考えをかかわらせて深め
△△という考えに着地させよう』



学び合いを可視化・活性化

【板書で】
〇　話合いの論点や視点を示す。
〇　板書で思考を刺激して深める。
（書く位置、空白の部分、色チョーク
文字の大きさ、心情曲線　など）

【ツールで】
〇　ミニホワイトボード、付箋、短冊等で考えや発言を類型化する。
〇　ノート等を見せながら伝え合ったり、話し合ったりする。
〇　思考ツール（ベン図や各種チャート等）を活用する。

教師の言葉かけ

◎　**考えをつなぐ言葉かけ**
「～さんの良いところはどこですか」　**（発見）**
「～さんはどうしてこういう考えが浮かんだと思いますか」　**（推測）**
「～さんの考えはどういうことですか」**（要約）**
「～さんの考えの続きが分かりますか」**（予想）**
「～さんの気持ちが分かりますか」　**（共感）**
「ヒントが言えますか」　**（補助）**
「～さんの説明をもう一度言えますか」**（再生）**

◎　**深め・広げる「つなぎ言葉」**
「だとしたら…」　「たとえば…」
「つまり…」　「…をもとにすると」
「もしかすると…」　「でも…」

「聴き方」も大切！ほめて育てましょう

こんな「聴き方」を称賛して伸ばしましょう

◎　しっかり聴いて反応している。
・　うなずく
・　首をかしげる
・　目を見開く　　等
◎　参考になる内容をメモしている。
◎　発言や発表の内容を確かめている。
「たとえば～ということですか？」
◎　説明者にアドバイスしている。

「聴くこと」は学び合いの基盤です

グループ学習の目的を明確にしましょう

◎　**練り上げてよりよい意見にする。**
・　考えを深める場面
・　対比させて考える場面
・　１つの作業をもとに考える場面

◎　**出てきた多様な考えを整理する。**
・　多面的な思考が可能な場面
・　多様な解釈が必要な場面
・　多くの発想を出させる場面

◎　**みんなが「できる・わかる」ようにする。**
・　技能を習得する場面
・　疑問を解消する場面

子ども主体の学び合いで思考力を高める

こんなやりとりになっていませんか？

教　師：実験から何が分かった？
生徒Ａ：電力は電圧の大きさに比例します。
教　師：他にないかな？
生徒Ｂ：電流の大きさにも比例します。
教　師：じゃあ式で表すと？
生徒Ａ：電力＝電圧×電流で表せます。
教　師：そうだね。みんな、いいかな？
Ａ・Ｂ：は～い！

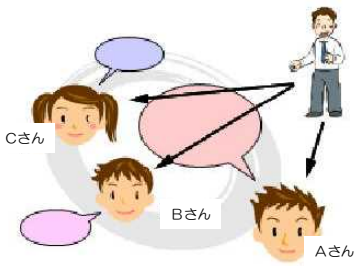
生徒Ｃ：よく分からないけど…まあいいか。

一問一答型では、指名されなかった子どもが傍観者として時間を過ごすことになったり、思考の論理的な積み上げが難しかったりします。子どもの実態を踏まえつつ、**子ども主体の学び合い**の中で一人一人の思考力を高めることを目指して**教師のコーディネート**を見直してみましょう。

◇　コーディネートの参考例

意図的指名型

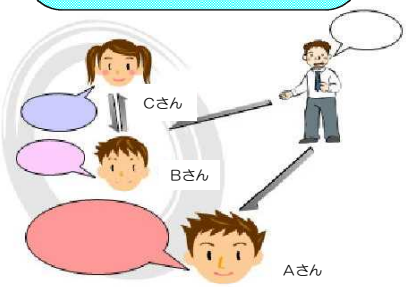
○　消極的な子どもを生かしたいとき
○　考えを積み上げたいとき　など



一人一人の考えを把握し、それをどのように組み合わせれば効果的か考えて指名する。
【発問の例】
○（似た考えの）Ｂさんは、Ａさんが、そう考えた理由を言えますか。
○（違う考えの）Ｃさんは、二人の考えをどう思いますか。

ペア対話型

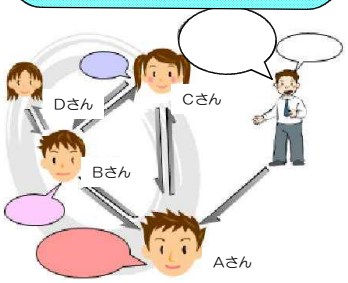
○　発言に自信をもたせたいとき
○　全員に話させたいとき　など



互いに説明・相談させたり、再生し合わせたりする。対話が円滑に進むように机間指導する。
【発問の例】
○　Ａさんの意見についてどう思うか、お互いに自分の考えを言ってみましょう。
○　Ａさんが言ったことをお互いに説明してみましょう。

子ども主体練り上げ型

○　考えを吟味したいとき
○　考えをまとめたいとき　など



話しやすい雰囲気づくりをする。ねらいに添った活動になるよう調整役としてグループを回る。
【発問の例】
○　みんなは、Ａさんの考えをどう思いますか。
○　Ａさんの考えを踏まえると、どのような結論が得られるでしょうか。

◇　コーディネートの流れ

子どものつぶやきや表情の変化をしっかりととらえることが大切です。

把握

授業中のあらゆる場面で見取る。教師の話を聞いているときの姿だけでなく、他の子どもの話を聞いているときの姿なども見逃さない。

解釈

見取った子どもの姿がなぜ生じているのか、その原因を考える。授業の進み方、説明の理解度、興味・関心等を子どもの立場で想像してみる。

選択

もう一度説明するのか、子どもを指名して説明させるのか、隣同士で相談させるのか等を選択する。指導の手立てを多くもっている必要がある。

実行

どのような言葉で発問・指示するか、誰を指名するか等の配慮をしながら次の指導を実行する。

＜授業づくりのポイント６＞

学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

学習内容の定着を図る「振り返る活動」とは、授業のまとめの段階などに、何を**（内容）**、どのように考え**（思考過程）**、そこから何を理解し**（意味）**、何を見いだすことができたか**（価値）**を振り返る学習活動のことです。

◇「振り返る活動」の主な目的

「振り返る活動」を取り入れていくことで、自分にどのような**知識・技能**が身に付き、どのような**思考力、判断力、表現力等**が育ったのかを確認することができるようになります。これにより、今後の自己の学習に対して、「前の方法は使えないかな」「他の場面には使えないかな」などと、見通しを立てて考えることができるようになり、**自主的に学ぶ態度**が育成されることが期待できます。

【学習内容の確実な定着】
→　子どもが何を学んだのか実感でき、本時の**学習内容を確実に身に付けさせる**ことができる。

【学習意欲の向上】
→　自己の変容や成長を自覚させることにより、**充実感や満足感を味わわせ、次時への意欲を高める**ことができる。

◇「振り返る活動」を充実させるためのポイント

（１）学習内容の確実な定着

ア　本時のまとめは、**課題との整合性**を図り、**本時に身に付けさせたいこと**をまとめる。

＜小学校５年理科板書例＞

め　電じしゃくのはたらきを大きくするにはどうすればよいだろうか。

＜予想＞
・電池の数を増やす
・コイルのまき数を増やす

＜実験＞

整合性

＜結果＞
1班　2班　3班　4班　5班

＜考察＞

ま　電じしゃくのはたらきを大きくするには、電流を強くしたり導線のまき数を多くしたりすればよい。

めあてとまとめの文脈がつながるように意識するといいですね。

イ　学習内容を**再生**して確認したり、**適用問題**を解いたりしながら、学習内容を定着させる。

ウ　目指す子どもの姿を明確にした評価規準を学習過程に設定し、学習状況を多様な方法で評価する。評価結果に基づいて子どもの学習を支援したり、学習活動を変更・改善したり、指導方法を改善したりする。**（形成的評価と補充指導）**

（２）学習意欲の向上

ア　**学習感想**を書く際には変容をとらえる視点（できるようになったことや工夫したことなど）を明確に示し、**よさや自分の成長を自覚**させる。

イ　**自己評価や相互評価**を行う時期と方法を計画的に設定し、継続していくことで自己の変容や成長を自覚できるようにする。

ウ　発展的な内容を意図的に取り上げたり、まだ、解決されないことは何かを考えさせたりして**次時への意欲付け**を図る。

◇ 学習を振り返ることができるノート指導

ノートは、学習の足跡が残る大切なものです。学んだことを確実に身に付けるために、次のような指導をしてはどうでしょうか。

○　発達段階や教科等の特質を考慮して、共通理解に基づいたノートづくりの指導を行う。

○　色鉛筆やボールペン等の使い方を決める。また、消しゴムの使用を制限し、思考の過程を残させる。

○　意図的にノートを評価し、よい点を称賛する。問題点については具体的に改善点を示し励ます。

◇ 再生する場の設定

学んだ知識や技能を再生する場を設定することで、本時の学びが子ども一人一人のものになっているかを確認できます。各教科の学習内容に合わせて、書いたり話したり表現したりする活動を位置付けましょう。

理科の例

電磁石の働きを大きくする方法を隣の友達に一つ話してみよう。

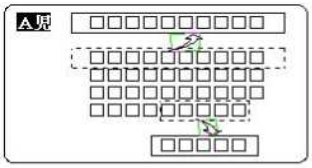
授業の終末で「何を学習したか」を明確に！！

＜小学校２年　算数「ひき算のひっ算」　※　３９－１５の計算の場合＞

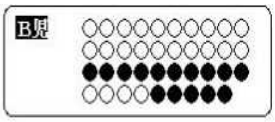
【本時のめあて】　２けた－２けたのひき算は、どのように計算すればいいのかな。

【子どもの考えの例】

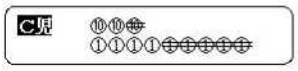
【ブロックで考えたＡ児】



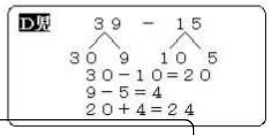
【図をかいて考えたＢ児】



【お金で考えたＣ児】



【式で考えたＤ児】



あなたの授業の終末を振り返ってみましょう。

教師が一つの考えでまとめていることはありませんか？

Ａ～Ｄ児の考え方について共有と吟味を行った後で、

教師：Ｄさんの考えがいつでも簡単にできる方法だね。どれも１０のまとまりとばらに分けて考えているけど、Ｄさんのように十の位と一の位に分けて計算するといいね。

教師：（まとめを板書）**「２けた－２けたのひき算は、位ごとに分けて計算する」**

教師：では、練習問題をやりましょう。（答え合わせをして、授業終了）

学習内容の定着を図るまとめ方の例　（時間配分１０分間程度）

Ａ～Ｄ児の考え方について共有と吟味を行った後で、

教師：どの考えも１０のまとまりとばらに分けて考えているけど、みんなが言うようにＤさんの考えが簡単にできそうだね。**いつでもその考えが使えるか、Ｄさんの考えで「６８－２４」を解いてみよう。**

「類似問題を解く」適用問題、「別な手順で解く」適用問題

Ｃ児：なるほど、Ｄさんの考えのように十の位と一の位に分けて計算するといつでも簡単にできますね。

教師：２けた－２けたのひき算は？

全員：位ごとに分けて計算する。

教師：（まとめを板書）　２けた－２けたのひき算は、位ごとに分けて計算する。

教師：**（学力調査の誤答例を提示して）では、この問題の解き方は、どこが違っているかな。**

「誤答を修正させる」適用問題

※　実態によっては定着を図るために、「同じ手順で解く」適用問題も考えられる。

教師：今日の学習で分かったことやよかったことをノートに書きましょう。

Ｂ児：図をかくのは大変なので、これからは位ごとに分ける方法を使って計算しようと思いました。

教師：ところで、４３－１９のような計算はできるかな？

Ｄ児：あれ？位ごとに分けただけでは計算できない・・・。よし、自主学習でやってみて、次の授業に備えよう。

（次時の課題へつなげて、授業終了）

まとめをする前に類題を解き、一般化を図りたい。また、類題を解くことで友達の考えに実際に触れ理解を深めさせたい。

児童の言葉を生かしながらまとめを行い、学習内容や自分の成長について振り返りをさせたい。

算数・数学　ねらいに合った適用問題を使い分けよう。

○「類似問題を解く」適用問題
　→　一般化を図りたい時などに
「この方法で別な問題も解けるかな」

○「同じ手順で解く」適用問題
　→　定着を図りたい時など
「数字が違っても解けるかやってみよう」

○「誤答を修正させる」適用問題
　→　確かな理解につなげるために
「この解き方はどこが違っているの」

○「別な手順で解く」適用問題
　→　深い理解につなげるために
「友達の考えた手順で解いてみよう」

3　学習基盤づくり

学級・学習集団づくり　～安心感・存在感・向上心～

◇　こんな学級・学習集団に

○　明るく、楽しく、笑顔があふれている。
○　思いやり、優しさ、温かさがある。

○　一人一人のよさ・違いを認め合っている。
○　ルール、規律を大切にしている。

○　互いの頑張りや失敗を認め、励まし合うことができる。
○　互いに支え合い、刺激し合い、高め合っていくことができる。

一人一人が大切！

みんなちがって、
みんないい！

みんなで、よい学級を
つくろう！

☆　安心感・・・規範意識と好ましい人間関係
☆　存在感・・・互いに尊重し合う態度
☆　向上心・・・前向きによりよいものを目指す心

◇　互いに支え合って、学級・学習集団づくりをしていきましょう。

育みたい子どもの姿

一人一人を育てることが、互いに学び合う学級・学習集団につながります！

○　常に**相手を意識**し、**尊重する態度**を育むことが大切です。
- 話合い等で、相手の話を最後まで聞いてから発言をする子ども
- 様々な考えを尊重しながら、折り合いを付けていく子ども

○　**子ども一人一人のリーダー性**を育むことが大切です。
- 小さな成功体験の積み重ねによって自信をもつ子ども
- 「頼りにされている」という実感をもち、学級の役に立とうとする子ども

全体で取り組みたいこと

学校の体制づくり、そして、教師集団の同僚性を発揮することが大切です！

○　それぞれの**学級経営方針を明確**にし、全職員で共有しながら**互いに支え合う体制**をつくることが大切です。
- 互いの学級経営に対して気軽に意見が出し合える雰囲気づくり
- 子どもと向き合う時間を大切にし、学校全体での「学級・学習集団づくり」のための環境整備

教師（担任）が心がけたいこと

教師の姿勢が子どもを導きます！

○　一人一人のよさを生かし伸ばすために、結果だけでなく**プロセスを認め**、機会をとらえて効果的に「**奨励、称賛**」していくことが大切です。

○　自分たちで高め合っていこうとする意識を子ども達にもたせるために、子ども同士が**互いの成長を認め合う場**を設定することが大切です。

○　多様な意見や価値観を認めて最後まで真剣に聴く、たとえ間違っても笑わないなど、**全員が気持ちよく学べるようなルール**を**子どもと共に確立**していくことが大切です。

先生方の意識が学級･学習集団を変えます

私たち教師は、教職経験の年数にかかわらず、子どもたちとのかかわりの中で、「この子どもたちのために何をすべきか。」等の思いを抱いています。その思いを大切にしながら、子どもたちと共に歩む姿勢を示し、温かい人間関係で結ばれた学級・学習集団づくりに努めましょう。

学級・学習集団づくりはすべての土台！
～子どもや集団を見つめ、自分の指導を振り返ってみましょう～

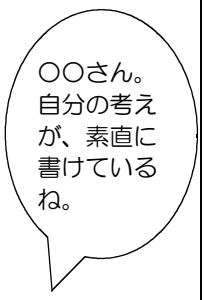
☆　互いに支え合って集団づくりをしましょう！

□　学校・学年の経営方針を踏まえて学級目標を設定し、それを意識した学級経営をしていますか。

□　学級経営を充実させるために、指導内容や環境整備等について、気が付いたことを伝え合う雰囲気はありますか。

□　自分の学級を客観的に見るために、他の学級との交流や先生方との情報交換をしていますか。

☆　一人一人を認め、励まし、称賛して温かい雰囲気をつくりましょう！



□　一人一人のよさを認め、よさを伸ばすことに努めていますか。

□　子どもの間違いや多様な考えを共感的に受け入れていますか。

□　子どもの間違いや多様な考えを生かすことにより、「みんなの役に立てた」という自己有用感をもたせていますか。

□　子どもの思いや考え、活動等を学級全体に広め、子ども同士が互いのよさを認め合う場を設定していますか。

□　子どもの陰の努力や小さな変化を見逃さず、結果だけでなく、プロセスを大切にして褒めていますか。

□　子どもができないことを仕方がないと諦めずに、課題解決の糸口を子どもとともに考える姿勢をもち、指導や支援をしていますか。

☆　一人一人のリーダー性を育て、集団を成長させましょう！

□　子どもが自ら積極的に活動できるような働きかけをしていますか。

□　子どもが相手を尊重しながら、自分の考えや意見を伝える場の設定と工夫をしていますか。

□　所属している集団のために、「自分に何ができるか」を真剣に考えさせ、話し合う場を設定していますか。

□　係や班のリーダーなど、一人一人に必要な経験を積ませていますか。

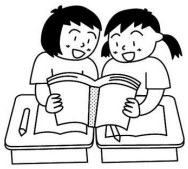
□　所属している集団の成長に気付かせるために、学習課題に協力して最後まで取り組んだり、みんなで一つのものをつくり上げたりする経験をさせていますか。

☆　安心して学べる学級・学習集団を目指しましょう！

□　全員が気持ちよく学ぶためのルールを子どもとともにつくっていますか。

□　子どもたちに「なぜそのルールが必要なのか」等、意味を理解させていますか。

□　友達が表現したものに対して、冷やかしたり、笑ったりするなど、学習活動に必要な守るべきルールを子どもが破ったときには、毅然とした指導をしていますか。



うなずいて話を聞いてくれるから話しやすいね。
安心して何でも話せるね。

一人一人の子どものよさや可能性を最大限に引き出すために
～全ての学級に生かせる特別支援教育の視点～

教師が対応に苦慮する子どもは、子ども自身も学びにくさや生活しにくさを感じながら学校生活を過ごしています。子どものよさや可能性を引き出すためには、自己肯定感を下げない学校生活を送ることができるようにすることが大切です。そのためには、育ちを見守りつつ、自立を目指した適切な指導と必要な支援をバランスよく行い、過不足ない働きかけを継続していきたいものです。以下に支援のポイントを紹介します。これらの支援は、周囲の子どもにも有効な働きかけです。

授業の準備では

◎　子どもの学習環境を整えましょう。

環境や予定の変更に影響されやすい子どもがいます。

△　掲示物や周囲の音などが気になり、授業に集中することが難しくなります。また、急に予定が変わると、不安感から落ち着かなくなることがあります。

□　教室の正面（黒板や黒板周り）を整理し、必要なものは教室の側面などに掲示する。授業中は、刺激になるものをカーテンや布で覆う。
□　座席の位置を工夫する（廊下側や窓側は避ける、支援しやすい前列や見本になる友達の近くにする等）。
□　予定の変更はなるべく避け、変更する場合は必ず予告する。

つまずきの把握には

◎　子どもの苦手さを理解しましょう。

分かっていても実行できない子どもがいます。

△　やる気があるのに「わからない」「できない」状況が理解されず、本人の努力不足と見られてしまうと、学習意欲の低下や生徒指導上の問題行動をまねく場合があります。

□　話すことが苦手な場合には、必要に応じて選択肢を示したり、書いて伝える方法を提案したりする。
□　読むことが苦手な場合には、教科書等の文字を拡大したり行間をあけたり、読む量を調整したりする。
□　書くことが苦手な場合には、重要語句を枠で囲むなど板書を工夫するとともにノートのどこに何を書くかのルールを指導する。

自己肯定感を下げない支援を！

指示や発問では

◎　子どもに分かりやすい指示の仕方を考えましょう。

指示や説明を聞くことが苦手な子どもがいます。

△　「聞いていない」との誤解から繰り返し注意されたり、学習内容が理解できなかったりすることが多くなるため、自己評価の低下につながる場合があります。

□　「大事なことを一度だけ言います。」など、子どもの注意を引きつけてから話す。
□　指示は短く、具体的に行い、重要なことは複数回伝える。
□　絵や図、文字などを用い、指示内容を可視化する。
□　教師の視線、しぐさ、声の大きさやトーンを変化させるなど、子どもへの伝わりやすさを考える。

称賛や意欲付けには

◎　子どもを褒めたり、認めたりする方法を考えましょう

褒められる経験がとても少ない子どもがいます。

△　学級への所属感が育ちにくく、劣等感をもちやすくなり、自己評価が下がる場合があります。

□　得意なこと、興味・関心があることに注目する。頑張りを認め、あたりまえのことでも周囲の子どもたちと同じようにできたら褒める。
□　直接褒めることに加えて、校内の他の教師を通して間接的に褒めたり認めたりする。
□　子どものよさや得意なことを生かし、人の役に立った、人に喜んでもらえた等の経験ができるようにする。

※　しかし、他人への迷惑行為などに対しては、譲らない姿勢で接することが大切です。

◇　保護者と連携するためには

子どものよさを日常的に伝え、信頼関係を築きましょう。心配な点について話し合う際にも、まずは、**保護者をねぎらう言葉かけ**をしてみましょう。保護者の願いや困っていること等に耳を傾けるとともに、授業中の様子や支援した内容・方法を伝え、うまくいったこと、うまくいかなかったことを共有しましょう。

また、保護者との共通理解のもと、**一貫性のある指導**をすることが、結果的に子どもの社会性を養い、将来の自立につながることを様々な機会を通して繰り返し話し合いましょう。

保護者が不安になる教師の「ことば」
○「困っています」
○「どうしたらいいか専門家に聞いてきてください」
○「忙しいので・・・」
○「他の子もいますから・・・」

話し合った内容は**「個別の教育支援計画」**に記入し、**保護者との懇談**や関係機関との連携、就学時や進学時等の**引継ぎ**に活用しましょう。

連続性を意識した幼小中の接続へ
～幼稚園教育の視点から～

幼稚園教育で育まれたことが、次のステージ（小学校）にもつながり、さらに積み上げられて、着実に成長する子どもの姿を目指したいとみんなが願っていると思います。

幼小中の接続がさらに効果的に実施されるために、小・中学校を意識した幼稚園での取組を紹介します。幼小中の接続を踏まえた今後の取組についてそれぞれの小・中学校で再検討してください。

幼稚園の取組　　**接続のポイント**

◇　幼児の生活や学びの連続性を踏まえた指導計画の改善・充実

○　小学校の行事等への参加や授業参観等、幼小の連携を意図的・計画的に行っている。
○　保護者とコミュニケーションをとり、家庭生活との関連性・連続性を踏まえた保育を展開している。
○　幼児による話合い活動を積極的に取り入れた遊びや幼児の主体性を育む環境づくり等、小学校へのつながりを配慮した保育計画を作成している。
○　「気付き」を大切にした遊びを活用し、小学校の生活科を意識した保育をしている。

学びや人格形成は幼児期から始まります！

幼小の育ちと学びをつなぐ「スタートカリキュラム」による効果的な指導が大切です。

◇　幼児同士が言葉による思いを伝え合う場の設定

○　教師が、人間関係の育ちを意識し、友達とのかかわりがもてるように支援するだけでなく、幼児自身の表現を促す伝え合いの機会をつくっている。
○　幼児が様々な体験の中で、感動したり、友達と心が通ったりする経験を通して自分の思いを言葉で表現する場や機会の確保に努めている。
○　友達のよかったところを言葉を使って紹介するなど、互いを認め合える学級づくりを行っている。

心ゆさぶる体験が表現力を高めます！

幼少期の様々な体験が豊かな情操を培い、言葉による表現力を高めます。

◇　幼児が主体的に体を動かす心地よさを体験できる遊びの工夫

○　体を動かす気持ちよさを体験させるために、遊具の工夫や季節に合う環境づくりに努めている。
○　様々な工夫を凝らした環境を考え、幼児が協同して遊べる活動を取り入れ、課題である運動量の不足の解消に取り組んでいる。
○　室内でも十分な運動量が見込める活動を積極的に取り入れている。

運動量の十分な確保が、健全な発育につながります！

幼少期の運動が、健康な体をつくります。幼少期の運動不足を解消することが大切です。

◇　幼児の発達する姿やよさに目を向けた評価の工夫・活用

○　特別な支援を必要とする幼児について保護者との合意形成、関係機関との連携を図りながら個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成し、保育に生かしている。
○　具体的な指導事例を基に教師相互の意見交換等をしながら幼児一人一人のよさや発達を見取り、適切な支援をしている。

一人一人の見取りが教育効果を高めます！

幼稚園の情報を小・中学校でも共有することが大事です。

幼小中の接続を意識した教育活動をさらに生かしていくためには、幼稚園での幼児の実態を知った上で、小・中学校での教育活動を進めることが重要になります。生活の連続性や発達、学びの連続性を幼稚園、小・中学校それぞれの教師が理解し、指導に生かすことが指導の効果を上げることにつながります。行事や授業を参観する交流はもちろんですが、一番大事なのは、教師間の交流だと考えます。**幼稚園、小・中学校の先生方が一緒に集まり、子ども一人一人の情報交換**をすることを通して、それぞれの指導観や指導法を互いによく理解し、指導の連続性を保つことが大切です。

幼稚園、小・中学校それぞれの指導、保育を互いに知ることが大切です！

中・高の学びをつなぐための課題と連携の在り方
～高等学校教育の視点から～

他校種との学びの接続を考えたとき、中学校と高校の間には大きな違いがあるように感じます。
高校生の発言から読み取れる学習環境上の問題点や生徒の立場に立った接続上の課題を整理し、中・高の学びをスムーズにつなげるための方策を紹介します。

1　高校生の気になる発言から見えてくるもの

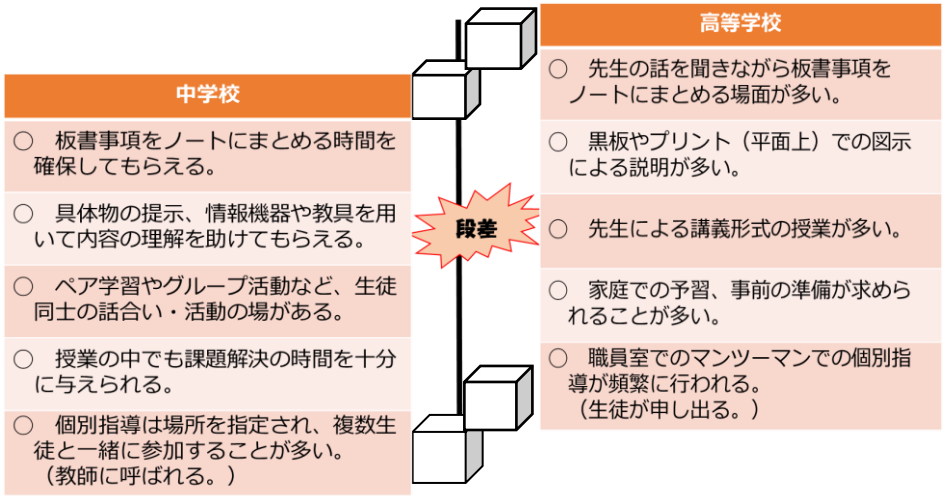
【高校生の気になる発言】	【背　景】
「勉強の仕方が分かりません。どうやって勉強したら良いですか？」	目的をもった主体的な学習、自学自習の習慣が身に付いていない。与えられた課題による学習、塾等の影響がある。
「課題がまだ終わっていません。もう少し待ってください。」	部活動や通学時間等のせいにする傾向が強い。計画的な学習が苦手であり、やらなくても何とかなるという思考がある。
「授業の進度が速くてついて行けません。」	説明を聞きながらノートにまとめることに慣れていない。※進度が速い学校の数学は教科書2.5冊/年ペース
「今日もノートに書くんですか？プリント学習にしてください。」	プリント学習（空欄に書き込む→ファイリング）に慣れ過ぎている。自分のノートを活用した自学自習ができない。
「もっと簡単な解法はないですか？面倒な計算したくないです。」	安易に効率性を求める風潮がある。苦労した先に得られる学習内容の本質的な理解の体験が足りない。
「毎日の家庭学習時間ですか…？え～と、０時間です。」	家庭学習をしたことによる授業内での成功体験が不足している。家庭に学習するスペースがない生徒も…。

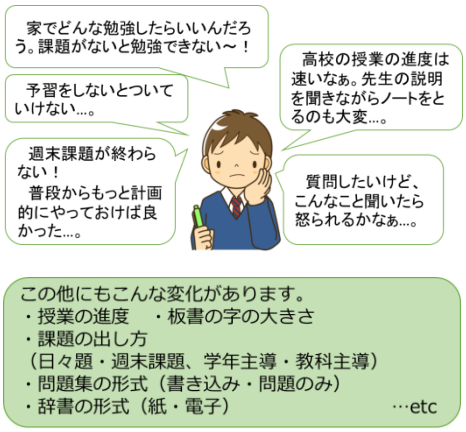
合格発表後の学習課題を期限までに提出できない生徒が見られる。中には、意図的にページを飛ばして提出する生徒もいる…。

家庭学習と授業をリンクさせる工夫が必要である。

2　生徒から見た中高接続上の段差

これらの段差に対し、生徒は**困り感**を感じています。その段差を低くするための**中・高双方の配慮**が必要です。





3　それぞれの校種における授業改善に向けての課題

〈中学校〉
- 教師主導の授業で、生徒の考える（伸びる）時間（機会）を奪っていないか。
- 素材を十分に生かした授業構想か。
- 退屈している生徒はいないか。
- 効果の伴わないペア学習、グループ学習をしていないか。

〈共　通〉
- 生徒の思考に沿った授業をしているか。
- 単位時間の授業のねらいとまとめの整合性は図られているか。

〈高等学校〉
- 教師の一方的な説明に終始していないか。
- 教室全体と生徒一人一人の表情を見て授業をしているか。
- 生徒に守らせたいことを共通実践できているか。（例 寝ている生徒をそのままにしていないか）
- 自分の授業の振り返りをせず、中学校のせい、勉強しない生徒のせいにしていないか。

これらの中・高の学びの段差や校種ごとの授業実践上の諸課題により、自己肯定感が低いまま高校に入学してくる生徒も多くなっています。高校では、『**学校設定科目**』(※次頁参照) に小・中学校の学習内容の振り返りを設定し、「分からなかったものが分かる喜び」を味わうこと、つまり“学び直し”を通して、生徒の困り感を解消し高校の学習内容につなげていく取組を行っている学校もあります。

(※) … 学校や生徒の実態等に応じて，必要がある場合には，義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るようにすることを規定しており，その工夫の一つとして，義務教育段階での学習内容の確実な定着を図ることを目標とした**学校設定科目**等を履修させた後に，必履修教科・科目を履修させるようにすること（総則第5款の3の(3)のウ）が示されている。このため，こうしたことも踏まえながら，学校や生徒の実態等に応じた適切な**学校設定教科・科目**を開設することが重要である。なお、高等学校教育の目標は、義務教育の成果を発展、拡充させることであるから、生徒の実態に応じ義務教育段階の学習内容について学び直しをし、その成果を発展、拡充させるために、義務教育段階の学習内容の確実な定着を図ることを目的とした学校設定教科・科目を高等学校の教科・科目として開設することは、このような高等学校教育の目標に適合するものである。…

（高等学校学習指導要領解説　総則編p36）

4　「学校設定科目」を活用した、高等学校における具体的な学び直しの取組例

(1) 入学時の基礎学力の把握　…　新入生への課題テスト、外部の学力診断テスト等の活用の実施

○　個及び全体の学習状況の分析、**個々の誤答分析**をする。生徒のつまずきは教師のつまずきであることを認識し、生徒の立場に立って指導方針を立てる。

○　分析結果を年間指導計画に反映させる。

(2) 授業における課題プリントや定期考査等での基礎・基本問題の反復練習

○　ある程度できるようになったら、時間制限を設けたり、問題数を増やしたりして、より高いレベルの課題に取り組もうとする意欲を喚起　→　課題への集中力の高まり

○　小テストの形式の工夫　…　良問をＡ５版表裏、１０分程度を反復練習

(3) １学年中間考査の重要性

○　「やったらできた！」（壁を乗り越える）という経験　→　学びの軌道へ

(4) 課題テスト、定期考査、朝学習等で間違えた部分の徹底的な復習

…　**「ミスをしない」だけでなく「なぜ間違えたのか」の確認**

(5) 自校の**生徒の実態に応じた学び直し教材**の作成

(6) 生徒個々の学習カルテの作成　…　前の校種の学習内容の到達度を把握できるもの

(7) 「校内○○コンテスト」の実施

○　等級に難易度分けした国数英の課題やコンテスト形式の課題に定期的に挑戦させ、その生徒の学力に応じた達成感と成績の伸長度を実感させる。

(8) その他

○　職員室での個別指導　…　**いろいろな先生からの言葉かけが生徒にとって何よりの励まし**になる。

○　力のある生徒に対する各教科によるチーム支援、可能性の引き出し

→　核になる生徒がいると集団の雰囲気も変わる。

5　中・高の学びの段差を低くするための中学校における指導の工夫

(1)　生徒の発達段階に応じて、板書事項を教師や友人の**話を聞きながらノートにまとめる授業形態**を意図的に取り入れる。

(2)　一定量のまとまった課題を、自分で立てた学習計画に基づいて実践し、やり遂げたという成功体験を味わうことのできる学習場面を設定する。達成できなかった生徒には、教科担当者による学習相談を実施し、個別指導で対応する。家庭と連携しながら物事を最後までやり通すことの大切さを伝える。

(3)　ただ課題を与えていくのではなく、生徒**自ら課題を設定**した探究的な学習の場面を取り入れる。

(4)　自分の力で解決できないような疑問点や学習内容については、授業終了後や昼休み、放課後等を利用して**自ら教師に質問**するよう促すとともに、それが可能な校内の学習環境を整える。

(5)　生徒自身に自分が集中できる環境（場所）を見付けさせ、乗り越えるべき**課題に一人で向き合う習慣**を身に付けさせる。

6　中高連携の在り方

(1) 生徒を**送り出す責任、受け入れた責任**に使命感をもち、困っている生徒の立場になって具体的方策を考えることが出発点になる。

(2) 隣接する中学校・高校間での取組から始め、個々の生徒の進路選択や地域全体の学力の向上、さらには**双方の教員の指導力向上**に結び付くよう連携の内容を工夫する必要がある。

(3) 中高の教科書の内容を系統的に理解し、**互いの校種を意識した意図的な授業展開**を取り入れる。

中：「高校では～なるよ」「この続きは高校で」「なぜこうなるのかは高校で詳しくやります」

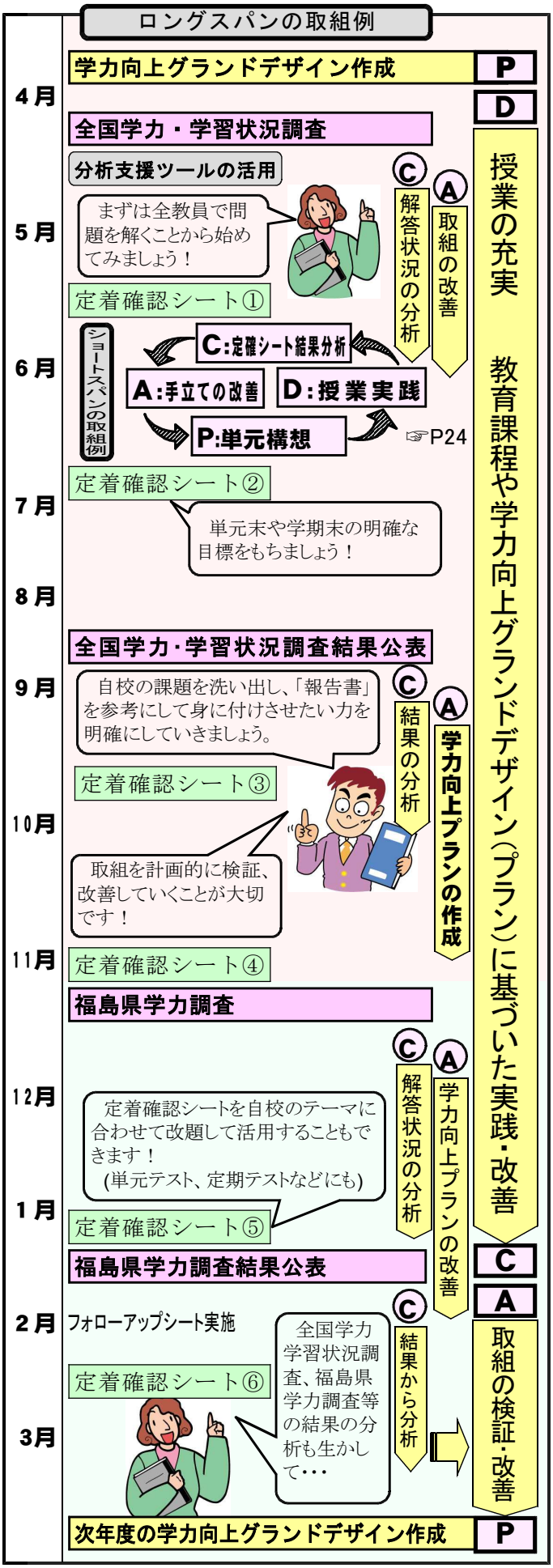
高：「中学では～だったけど、高校では…」「中学生の解法でも考えてみよう」

「なぜこのくらいのことが分からないの？小（中）学校でやってきたでしょ！」

思わず心の中で叫びたくなる場面もあることでしょう。しかし、今私達の目の前にいる子どもたちは、『昨日は分からなかったけど、今日の先生の説明を聞けば分かるかも…』と期待しながら登校してきたのかもしれません。前の校種での子どもたちの学びを理解し、次の校種（ステージ）で活躍する子どもの姿を思い描きながら、子どもたちの「学びたい」「知りたい」という期待に応えられる質の高い授業をつくりあげましょう。

明確な目標設定による組織的な学力向上策の推進

◇　ロングスパンで学力向上を！



P　学力向上グランドデザインの作成へ向けて

＜目指す子どもの姿から＞
- 自校の実態の把握をして

＜授業改善の視点から＞
- アクティブ・ラーニングの視点
- 全教科で言語活動の充実
- 重点単元の設定

＜授業外の手立ての改善の視点から＞
- 習熟の時間の確保、内容、方法
- 学習環境の整備、充実
- 成果と教員の負担からの見直し

＜学習習慣、生活習慣の改善の視点から＞
- 家庭学習の習慣化
- 読書活動の推進
- メディアに関する指導

D　共通実践を全校体制で

- 「授業スタンダード」に基づく実践
- 振り返る活動の充実
- 学習形態の工夫
- 家庭学習の工夫・改善
- 学力調査の問題を活用した教材研究

C　指標を設定して取組の評価を計画的に

＜授業改善へ向け＞
- 単元(評価)テスト、定期テスト(中)
- 全国学調、県学調、NRT等の学力調査
- 授業研究会の自己評価・協議・助言
- 子ども、教師の自己評価

＜学びの基盤形成へ向け＞
- Q-U
- 保護者アンケート
- 学校評価　　等

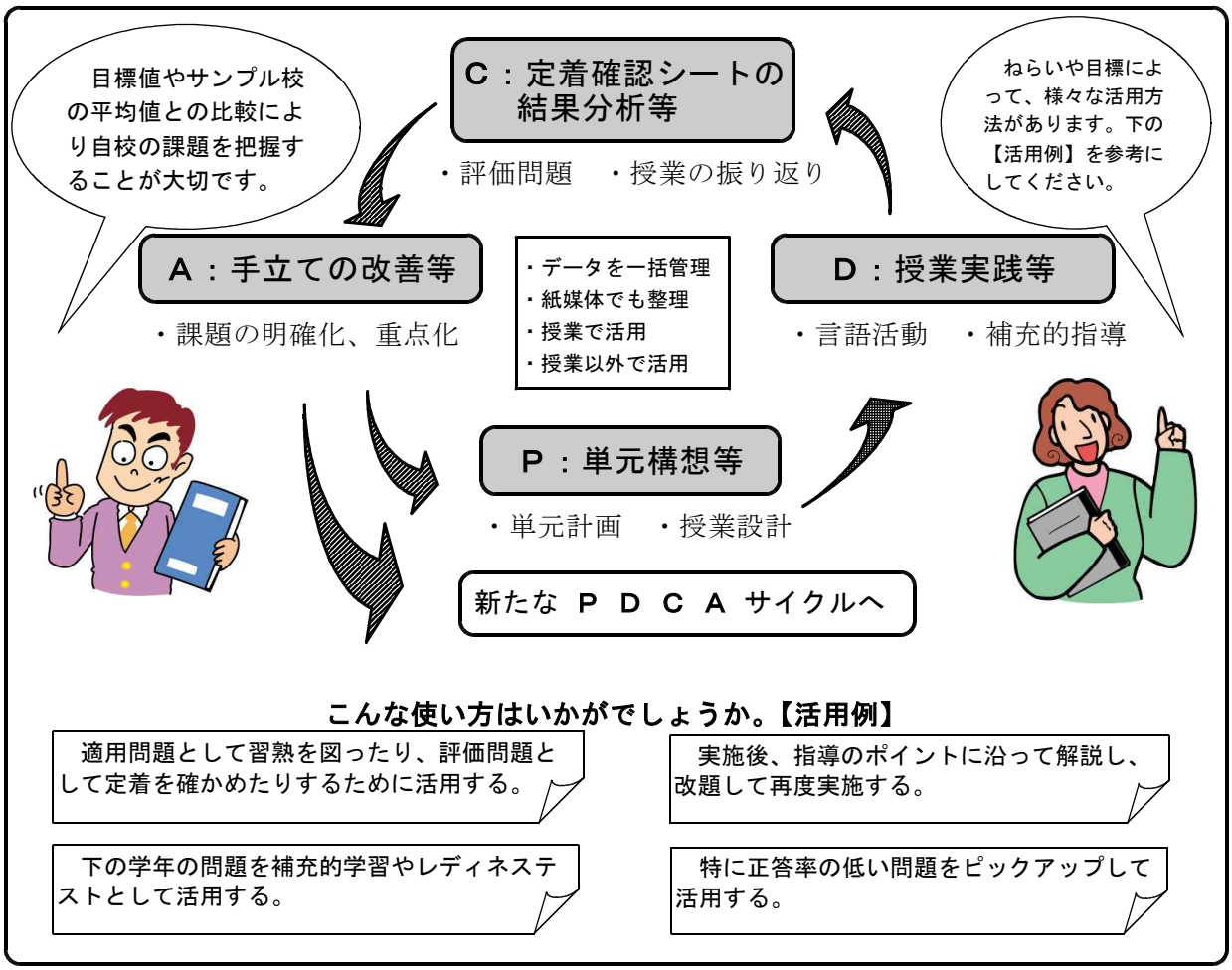
A　実施可能な手立てを精選して

- これまでの手立てを改善して
- 先進的な取組を参考にして
- 「報告書」や「授業アイディア例」を参考にして
- 指導の系統性をふまえて、学年ごとの取組を明らかにして

★　全国学力学習状況調査、県学力調査を活用し、時機を捉えて、Ⓒ:分析とⒶ:改善を行い、取組の充実を図ります。

◇　定着確認シートを活用してショートスパンの充実を！

定着確認シートを効果的に活用して、成果を上げている学校があります。
ねらいや目標を明確にしてショートスパンのＰＤＣＡサイクルを充実させ、子どもの学力向上のため、日々の取組を徹底することが大切です。



こんな使い方はいかがでしょうか。【活用例】

- 適用問題として習熟を図ったり、評価問題として定着を確かめたりするために活用する。
- 実施後、指導のポイントに沿って解説し、改題して再度実施する。
- 下の学年の問題を補充的学習やレディネステストとして活用する。
- 特に正答率の低い問題をピックアップして活用する。

◇　学力向上に向けた学校体制の充実を！

このチェックリストで自校の取組を振り返り、改善に役立ててください。

□１　自校の実態及び学力向上策の成果と課題が説明できる。

□２　少人数教育（習熟度・コース別学習、Ｔ・Ｔ等）がさらに充実するよう努めている。

□３　目指す子どもの姿を具現化する授業改善を目指し、管理職の指導の下、相談しながら取り組んでいる。

□４　個に応じた指導を心がけ、発展的・補充的学習に関する方策を共通理解に基づき実践している。

□５　学力向上に関する目標達成を目指し、自分が、何を、いつまでに行うのかを自覚し、責任をもって取り組んでいる。

６　次の資料を有効に活用している。

□福島県「授業スタンダード」　□全国学力・学習状況調査解説資料及び報告書
□定着確認シート　□全国学力・学習状況調査授業アイディア例
□フォローアップシート　□算数・数学指導事例集及び問題集

＜　参考文献・引用文献　＞

○　幼稚園教育要領　文部科学省

○　小学校学習指導要領　文部科学省

○　中学校学習指導要領　文部科学省

○　高等学校学習指導要領　文部科学省

○　特別支援学校学習指導要領（幼稚部・小学部・中学部・高等部）　文部科学省

○　幼稚園教育要領解説　文部科学省

○　小学校学習指導要領解説（各編）　文部科学省

○　中学校学習指導要領解説（各編）　文部科学省

○　高等学校学習指導要領解説（各編）　文部科学省

○　特別支援学校学習指導要領解説（各編）　文部科学省

○　楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動　小学校編

文部科学省　国立教育政策研究所　教育課程研究センター

○　学級・学校文化を創る特別活動　中学校編

文部科学省　国立教育政策研究所　教育課程研究センター

○　「授業をつくる１６の視点」　福島県教育資料研究会

○　「日々の授業のブラッシュアップ Vol.1」

－授業の基礎／基本「発問、板書、ノート指導」－　福島県教育委員会

○　「日々の授業のブラッシュアップ Vol.2」

－授業を支える「教材研究、学習指導案、話合い、基本的な学習習慣」－

福島県教育委員会

○　初等教育資料（平成２５年度～平成２８年度発行分）　文部科学省教育課程課

○　中等教育資料（平成２５年度～平成２８年度発行分）　文部科学省教育課程課

ほか